

時間割コード	KB7101	ナンバリング	KB-GER-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語 I				
担当教員（ローマ字表記）	小泉 淳二, 小沼 喜好 (Onuma Kiyoshi)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ドイツ語 I

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、ドイツ語の初歩をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら練習問題に挑戦し、文法事項の確認をおこないます。練習問題は、宿題（レポート）にもなります。この授業は、月2と木4に同一クラスで週2回ずつおこないます。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語を理解し、聞き、話すことができるよう、規則・不規則動詞の現在時制など、ドイツ語技能検定試験（略称「独検」）5級で求められる学修内容を修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

(01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス。

【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。

(02) 【授業内容】 文字と発音。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(03) 【授業内容】 規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(04) 【授業内容】 重要な不規則動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(05) 【授業内容】 名詞の性。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(06) 【授業内容】 定冠詞と不定冠詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(07) 【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(08) 【授業内容】 復習。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(09) 【授業内容】 複数形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】不規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】命令形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】定冠詞類と不定冠詞類。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】人称代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

(16)【授業内容】前置詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(17)【授業内容】従属接続詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(18)【授業内容】話法の助動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(19)【授業内容】未来形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(20)【授業内容】分離動詞、再帰動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(21)【授業内容】形容詞、比較表現。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(22)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(23)【授業内容】復習。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(24)【授業内容】過去形。

【授業外学修】教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(25)【授業内容】完了形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(26)【授業内容】zu不定詞、分詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(27)【授業内容】指示代名詞、関係代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(28)【授業内容】接続法。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(29)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(30)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

*第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

*第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

*予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

*ラーニング・コモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。11回休んだら単位は認定されません。この授業は週に2回連動式におこないますので、月曜または木曜の授業だけを単独で履修することはできません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点は「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	クヴェレ・ドイツ文法（改訂版）
著者名	森公成ほか
出版社	同学社
出版年	2017
ISBN	9784810208870
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	ドイツの街角から：素顔のドイツ--その文化・歴史・社会
著者名	高橋憲著
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7102	ナンバリング	KB-GER-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語 I				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 満広, 市川 宏子 (ichikawa hiroko)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ドイツ語 I

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、ドイツ語の初歩をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら練習問題に挑戦し、文法事項の確認をおこないます。練習問題は、宿題（レポート）にもなります。この授業は、月2と木4に同一クラスで週2回ずつおこないます。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語を理解し、聞き、話すことができるよう、規則・不規則動詞の現在時制など、ドイツ語技能検定試験（略称「独検」）5級で求められる学修内容を修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

(01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス。

【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。

(02) 【授業内容】 文字と発音。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(03) 【授業内容】 規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(04) 【授業内容】 重要な不規則動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(05) 【授業内容】 名詞の性。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(06) 【授業内容】 定冠詞と不定冠詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(07) 【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(08) 【授業内容】 復習。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(09) 【授業内容】 複数形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】不規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】命令形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】定冠詞類と不定冠詞類。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】人称代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

(16)【授業内容】前置詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(17)【授業内容】従属接続詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(18)【授業内容】話法の助動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(19)【授業内容】未来形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(20)【授業内容】分離動詞、再帰動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(21)【授業内容】形容詞、比較表現。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(22)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(23)【授業内容】復習。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(24)【授業内容】過去形。

【授業外学修】教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(25)【授業内容】完了形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(26)【授業内容】zu不定詞、分詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(27)【授業内容】指示代名詞、関係代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(28)【授業内容】接続法。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(29)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(30)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

*第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

*第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

*予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

*ラーニング・コモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。11回休んだら単位は認定されません。この授業は週に2回連動式におこないますので、月曜または木曜の授業だけを単独で履修することはできません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点は「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	クヴェレ・ドイツ文法（改訂版）
著者名	森公成ほか
出版社	同学社
出版年	2017
ISBN	9784810208870
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	ドイツの街角から：素顔のドイツ--その文化・歴史・社会
著者名	高橋憲著
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7103	ナンバリング	KB-GER-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語 I				
担当教員（ローマ字表記）	小川 和彦				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ドイツ語 I

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、ドイツ語の初歩をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら練習問題に挑戦し、文法事項の確認をおこないます。練習問題は、宿題（レポート）にもなります。この授業は、月2と木4に同一クラスで週2回ずつおこないます。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語を理解し、聞き、話すことができるよう、規則・不規則動詞の現在時制など、ドイツ語技能検定試験（略称「独検」）5級で求められる学修内容を修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

(01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス。

【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。

(02) 【授業内容】 文字と発音。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(03) 【授業内容】 規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(04) 【授業内容】 重要な不規則動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(05) 【授業内容】 名詞の性。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(06) 【授業内容】 定冠詞と不定冠詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(07) 【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(08) 【授業内容】 復習。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(09) 【授業内容】 複数形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】不規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】命令形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】定冠詞類と不定冠詞類。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】人称代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

(16)【授業内容】前置詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(17)【授業内容】従属接続詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(18)【授業内容】話法の助動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(19)【授業内容】未来形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(20)【授業内容】分離動詞、再帰動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(21)【授業内容】形容詞、比較表現。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(22)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(23)【授業内容】復習。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(24)【授業内容】過去形。

【授業外学修】教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(25)【授業内容】完了形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(26)【授業内容】zu不定詞、分詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(27)【授業内容】指示代名詞、関係代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(28)【授業内容】接続法。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(29)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(30)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

*第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

*第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

*予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

*ラーニング・コモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。11回休んだら単位は認定されません。この授業は週に2回連動式におこないますので、月曜または木曜の授業だけを単独で履修することはできません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点は「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	クヴェレ・ドイツ文法（改訂版）
著者名	森公成ほか
出版社	同学社
出版年	2017
ISBN	9784810208870
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	ドイツの街角から：素顔のドイツ--その文化・歴史・社会
著者名	高橋憲著
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7201	ナンバリング	KB-FRE-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	フランス語 I				
担当教員（ローマ字表記）	神田 大吾				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

フランス語I

授業の概要/Course Overview

フランス語の学習経験ゼロの学生を対象に、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎をつくります。日常の平易な文章から言葉の仕組みを学び、演習問題をこなすことにより、ごく基本的なフランス語を読み、書き、話し、聞くことができるようになって、実用フランス語技能検定試験（仏検）5級レベルの実践的コミュニケーション能力を身につけます。

キーワード/Keyword(s)

仏検5級、基本的なフランス語、コミュニケーション能力、名詞、形容詞、基本動詞現在形。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入（アルファベなど）
- 第2回：つづり字の読み方と数字1から10
- 第3回：名詞と冠詞の説明と簡単な練習
- 第4回：動詞êtreの説明と簡単な練習
- 第5回：「私は～です」の文型を使って職業を答える会話練習
- 第6回：形容詞の説明と簡単な練習
- 第7回：疑問文と否定文の説明と簡単な練習
- 第8回：さまざまな形容詞を使った練習
- 第9回：「あなたはどこの国の人ですか？」という質問に答える会話練習
- 第10回：まとめ、その一
- 第11回：動詞avoirの説明と簡単な練習
- 第12回：所有形容詞の説明と簡単な練習
- 第13回：動詞avoirと所有形容詞とを組み合わせたさまざまな練習
- 第14回：「この人は誰？」という質問に答える会話練習
- 第15回：「この人はどんな人？」という質問に答える会話練習
- 第16回：第一群規則動詞の説明と簡単な練習
- 第17回：動詞faireの説明と簡単な練習
- 第18回：第一群規則動詞とfaireを使ったさまざまな練習

- 第19回：「～は好き？」の文型を使った会話の練習
第20回：「スマートフォンで何ををするの？」の文型を使った会話の練習
第21回：まとめ、その二
第22回：動詞「行く」と「来る」の説明と簡単な練習
第23回：第二群規則動詞の説明と簡単な練習
第24回：動詞「行く」と「来る」を使ったさまざまな練習
第25回：国名を含め、「～から来て、～へ行く」の文型を使った会話の練習
第26回：近接未来と近接過去の説明と簡単な練習
第27回：動詞partirとprendreの説明と簡単な練習
第28回：近接未来と近接過去を使ったさまざまな練習
第29回：「お昼にコーヒー、飲むの？」を使った会話の練習
第30回：総まとめ

【授業外学修】

- (1)各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
(2)まずは、指示された課題等を予習として必ず行ってください。予習には辞書あるいは電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べましょう。どの訳語がいいか分からないなど、理解できない箇所は赤ペンでチェックし、次の授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。
(3)ほぼ毎回の授業で「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいますので、復習として本文や例文を何度も繰り返し、声を出して文章を読んで、基本文を暗記するようにしましょう。
(4)また、書き取り（聞いただけでフランス語が書けるかどうか）の練習も積み重ねてください。特に動詞の活用は何度も練習して、必ず暗記（書いて、言えるように）してください。その他、基本表現を含む短文をいくつも暗記することも有効です。
(5)さらにフランス語力をつけたい人は各種参考書（後述）を読み、練習問題を行ってください。実用フランス語技能検定試験5級の問題集（茨城大学付属図書館にあります）に挑戦してみるのもお勧めです

【アクティブラーニング】

- 第2回から第9回、第11回から第20回、第22回から第29回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。これらはいずれも解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。
第5回、第9回、第14回、第15回、第19回、第25回、第29回に行われる会話練習とは「ロール・プレイング」です。

履修上の注意/Notes

この科目は週2回の授業です。遅刻は厳禁。早めに教室に入るようにしましょう。

情報端末の活用

全員一律での利用は特に予定していません。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：基礎的なフランス語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。
A：基礎的なフランス語を修得し、その構造を理解している。
B：基礎的なフランス語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。
C：基礎的なフランス語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。
D：基礎的なフランス語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

学期中に数回行われる確認テスト（合計100%）で成績評価します。いわゆる期末試験（16週目に実施）は行いません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	バンド・デシネでフランス語。
著者名	神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	『コレクションフランス語』1. 入門
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

参考書2

書名	『コレクションフランス語』3. 文法
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7202	ナンバリング	KB-FRE-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	フランス語 I				
担当教員（ローマ字表記）	木村 仁志（kimura Hitoshi）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

フランス語I

授業の概要/Course Overview

フランス語の学習経験ゼロの学生を対象に、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎をつくります。日常の平易な文章から言葉の仕組みを学び、演習問題をこなすことにより、ごく基本的なフランス語を読み、書き、話し、聞くことができるようになって、実用フランス語技能検定試験（仏検）5級レベルの実践的コミュニケーション能力を身につけます。

キーワード/Keyword(s)

仏検5級、基本的なフランス語、コミュニケーション能力、名詞、形容詞、基本動詞現在形。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入（アルファベなど）
- 第2回：つづり字の読み方と数字1から10
- 第3回：名詞と冠詞の説明と簡単な練習
- 第4回：動詞êtreの説明と簡単な練習
- 第5回：「私は～です」の文型を使って職業を答える会話練習
- 第6回：形容詞の説明と簡単な練習
- 第7回：疑問文と否定文の説明と簡単な練習
- 第8回：さまざまな形容詞を使った練習
- 第9回：「あなたはどこの国の人ですか？」という質問に答える会話練習
- 第10回：まとめ、その一
- 第11回：動詞avoirの説明と簡単な練習
- 第12回：所有形容詞の説明と簡単な練習
- 第13回：動詞avoirと所有形容詞とを組み合わせたさまざまな練習
- 第14回：「この人は誰？」という質問に答える会話練習
- 第15回：「この人はどんな人？」という質問に答える会話練習
- 第16回：第一群規則動詞の説明と簡単な練習
- 第17回：動詞faireの説明と簡単な練習
- 第18回：第一群規則動詞とfaireを使ったさまざまな練習

- 第19回：「～は好き？」の文型を使った会話の練習
第20回：「スマートフォンで何ををするの？」の文型を使った会話の練習
第21回：まとめ、その二
第22回：動詞「行く」と「来る」の説明と簡単な練習
第23回：第二群規則動詞の説明と簡単な練習
第24回：動詞「行く」と「来る」を使ったさまざまな練習
第25回：国名を含め、「～から来て、～へ行く」の文型を使った会話の練習
第26回：近接未来と近接過去の説明と簡単な練習
第27回：動詞partirとprendreの説明と簡単な練習
第28回：近接未来と近接過去を使ったさまざまな練習
第29回：「お昼にコーヒー、飲むの？」を使った会話の練習
第30回：総まとめ

【授業外学修】

- (1)各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
(2)まずは、指示された課題等を予習として必ず行ってください。予習には辞書あるいは電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べましょう。どの訳語がいいか分からないなど、理解できない箇所は赤ペンでチェックし、次の授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。
(3)ほぼ毎回の授業で「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいますので、復習として本文や例文を何度も繰り返し、声を出して文章を読んで、基本文を暗記するようにしましょう。
(4)また、書き取り（聞いただけでフランス語が書けるかどうか）の練習も積み重ねてください。特に動詞の活用は何度も練習して、必ず暗記（書いて、言えるように）してください。その他、基本表現を含む短文をいくつも暗記することも有効です。
(5)さらにフランス語力をつけたい人は各種参考書（後述）を読み、練習問題を行ってください。実用フランス語技能検定試験5級の問題集（茨城大学付属図書館にあります）に挑戦してみるのもお勧めです

【アクティブラーニング】

- 第2回から第9回、第11回から第20回、第22回から第29回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。これらはいずれも解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。
第5回、第9回、第14回、第15回、第19回、第25回、第29回に行われる会話練習とは「ロール・プレイング」です。

履修上の注意/Notes

この科目は週2回の授業です。遅刻は厳禁。早めに教室に入るようにしましょう。

情報端末の活用

全員一律での利用は特に予定していません。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：基礎的なフランス語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。
A：基礎的なフランス語を修得し、その構造を理解している。
B：基礎的なフランス語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。
C：基礎的なフランス語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。
D：基礎的なフランス語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

学期中に数回行われる確認テスト（合計100%）で成績評価します。いわゆる期末試験（16週目に実施）は行いません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	バンド・デシネでフランス語。
著者名	神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	『コレクションフランス語』1. 入門
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

参考書2

書名	『コレクションフランス語』3. 文法
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7301	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語 I				
担当教員（ローマ字表記）	李立冰（L i）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

中国語 I

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音、および初級文法を学ぶ。発音の練習、あいさつなど会話の練習、単語や文法の学習を進める。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、発音、会話力、基礎文法、あいさつことば、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の発音を正確に身につけるとともに、文法の基礎を理解し、あいさつや自己紹介などの会話、短い作文などができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

基本的にテキスト1課分を月・木曜、週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

1. シラバスを用いたガイダンス及びウォーミングアップ
2. 発音 声調・単母音
3. 発音 複母音・子音(1)
4. 発音 子音(2)(3)・鼻母音
5. 発音 その他補足事項
6. 発音の総復習
7. レベル確認テストI（発音）
8. 第1課 こんにちは！（語彙・ポイント・会話）
9. 第1課 自己紹介（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
10. 第2課 これはなんですか。（語彙・ポイント・会話）
11. 第2課 大山君の部屋（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
12. 第3課 何処に行くの。（語彙・ポイント・会話）
13. 第3課 コンビニで（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
14. 第4課 いくつ食べますか。（語彙・ポイント・会話）
15. 第4課 家族写真（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
16. 第5課 何曜日にバイトがあるの。（語彙・ポイント・会話）
17. 第5課 サッカーをする（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
18. レベル確認テストII（第1課～第5課）

19. レベル確認テストⅡの解説と総復習
20. 第6課 本日の授業は全部終わりましたか。(語彙・ポイント・会話)
21. 第6課 カラオケ(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
22. 第7課 ご飯を食べましたか。(語彙・ポイント・会話)
23. 第7課 海岸に行く(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
24. 第8課 富士山に登ったことはあるの。(語彙・ポイント・会話)
25. 第8課 北京が好き。(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
26. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 発音～第2課
27. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第3課・第4課
28. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第5課・第6課
29. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第7課・第8課
30. レベル確認テストⅢ(第1課～第8課までを範囲とし、ヒアリングおよび文法の総合テストを最終授業で実施)

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験(4級・準4級)(最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵)に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第1回～第6回、第8回～第17回、第19回～第29回の内容について、統一テキストを使用して、まず教員による講義を行う。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第7回、第18回、第30回において、到達度を測るテストを実施する。それにより、教授された知識が受講者に正しく定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、毎回PC等を準備しておくこと。
- ・チームコードは担当教員より、manabaまたは教務情報ポータルにて事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	4560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典【第3版】
著者名	北京・商務印書館, 小学館共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7302	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語 I				
担当教員（ローマ字表記）	王 克西				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

中国語 I

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音、および初級文法を学ぶ。発音の練習、あいさつなど会話の練習、単語や文法の学習を進める。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、発音、会話力、基礎文法、あいさつことば、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の発音を正確に身につけるとともに、文法の基礎を理解し、あいさつや自己紹介などの会話、短い作文などができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

基本的にテキスト1課分を月・木曜、週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

1. シラバスを用いたガイダンス及びウォーミングアップ
2. 発音 声調・単母音
3. 発音 複母音・子音(1)
4. 発音 子音(2)(3)・鼻母音
5. 発音 その他補足事項
6. 発音の総復習
7. レベル確認テストI（発音）
8. 第1課 こんにちは！（語彙・ポイント・会話）
9. 第1課 自己紹介（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
10. 第2課 これはなんですか。（語彙・ポイント・会話）
11. 第2課 大山君の部屋（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
12. 第3課 何処に行くの。（語彙・ポイント・会話）
13. 第3課 コンビニで（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
14. 第4課 いくつ食べますか。（語彙・ポイント・会話）
15. 第4課 家族写真（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
16. 第5課 何曜日にバイトがあるの。（語彙・ポイント・会話）
17. 第5課 サッカーをする（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
18. レベル確認テストII（第1課～第5課）

19. レベル確認テストⅡの解説と総復習
20. 第6課 本日の授業は全部終わりましたか。(語彙・ポイント・会話)
21. 第6課 カラオケ(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
22. 第7課 ご飯を食べましたか。(語彙・ポイント・会話)
23. 第7課 海岸に行く(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
24. 第8課 富士山に登ったことはあるの。(語彙・ポイント・会話)
25. 第8課 北京が好き。(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
26. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 発音～第2課
27. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第3課・第4課
28. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第5課・第6課
29. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第7課・第8課
30. レベル確認テストⅢ(第1課～第8課までを範囲とし、ヒアリングおよび文法の総合テストを最終授業で実施)

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験(4級・準4級)(最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵)に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第1回～第6回、第8回～第17回、第19回～第29回の内容について、統一テキストを使用して、まず教員による講義を行う。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第7回、第18回、第30回において、到達度を測るテストを実施する。それにより、教授された知識が受講者に正しく定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、毎回PC等を準備しておくこと。
- ・チームコードは担当教員より、manabaまたは教務情報ポータルにて事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	4560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典【第3版】
著者名	北京・商務印書館, 小学館共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7303	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語 I				
担当教員（ローマ字表記）	吉川 虹緒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

中国語 I

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音、および初級文法を学ぶ。発音の練習、あいさつなど会話の練習、単語や文法の学習を進める。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、発音、会話力、基礎文法、あいさつことば、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の発音を正確に身につけるとともに、文法の基礎を理解し、あいさつや自己紹介などの会話、短い作文などができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

基本的にテキスト1課分を月・木曜、週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

1. シラバスを用いたガイダンス及びウォーミングアップ
2. 発音 声調・単母音
3. 発音 複母音・子音(1)
4. 発音 子音(2)(3)・鼻母音
5. 発音 その他補足事項
6. 発音の総復習
7. レベル確認テストI（発音）
8. 第1課 こんにちは！（語彙・ポイント・会話）
9. 第1課 自己紹介（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
10. 第2課 これはなんですか。（語彙・ポイント・会話）
11. 第2課 大山君の部屋（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
12. 第3課 何処に行くの。（語彙・ポイント・会話）
13. 第3課 コンビニで（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
14. 第4課 いくつ食べますか。（語彙・ポイント・会話）
15. 第4課 家族写真（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
16. 第5課 何曜日にバイトがあるの。（語彙・ポイント・会話）
17. 第5課 サッカーをする（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
18. レベル確認テストII（第1課～第5課）

19. レベル確認テストⅡの解説と総復習
20. 第6課 本日の授業は全部終わりましたか。(語彙・ポイント・会話)
21. 第6課 カラオケ(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
22. 第7課 ご飯を食べましたか。(語彙・ポイント・会話)
23. 第7課 海岸に行く(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
24. 第8課 富士山に登ったことはあるの。(語彙・ポイント・会話)
25. 第8課 北京が好き。(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
26. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 発音～第2課
27. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第3課・第4課
28. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第5課・第6課
29. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第7課・第8課
30. レベル確認テストⅢ(第1課～第8課までを範囲とし、ヒアリングおよび文法の総合テストを最終授業で実施)

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験(4級・準4級)(最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵)に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第1回～第6回、第8回～第17回、第19回～第29回の内容について、統一テキストを使用して、まず教員による講義を行う。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第7回、第18回、第30回において、到達度を測るテストを実施する。それにより、教授された知識が受講者に正しく定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、毎回PC等を準備しておくこと。
- ・チームコードは担当教員より、manabaまたは教務情報ポータルにて事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	4560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典【第3版】
著者名	北京・商務印書館, 小学館共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7304	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語 I				
担当教員（ローマ字表記）	高 建華				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

中国語 I

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音、および初級文法を学ぶ。発音の練習、あいさつなど会話の練習、単語や文法の学習を進める。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、発音、会話力、基礎文法、あいさつことば、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の発音を正確に身につけるとともに、文法の基礎を理解し、あいさつや自己紹介などの会話、短い作文などができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

基本的にテキスト1課分を月・木曜、週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

- シラバスを用いたガイダンス及びウォーミングアップ
- 発音 声調・単母音
- 発音 複母音・子音(1)
- 発音 子音(2)(3)・鼻母音
- 発音 その他補足事項
- 発音の総復習
- レベル確認テストI（発音）
- 第1課 こんにちは！（語彙・ポイント・会話）
- 第1課 自己紹介（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第2課 これはなんですか。（語彙・ポイント・会話）
- 第2課 大山君の部屋（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第3課 何処に行くの。（語彙・ポイント・会話）
- 第3課 コンビニで（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第4課 いくつ食べますか。（語彙・ポイント・会話）
- 第4課 家族写真（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第5課 何曜日にバイトがあるの。（語彙・ポイント・会話）
- 第5課 サッカーをする（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- レベル確認テストII（第1課～第5課）

19. レベル確認テストⅡの解説と総復習
20. 第6課 本日の授業は全部終わりましたか。(語彙・ポイント・会話)
21. 第6課 カラオケ(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
22. 第7課 ご飯を食べましたか。(語彙・ポイント・会話)
23. 第7課 海岸に行く(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
24. 第8課 富士山に登ったことはあるの。(語彙・ポイント・会話)
25. 第8課 北京が好き。(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
26. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 発音～第2課
27. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第3課・第4課
28. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第5課・第6課
29. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第7課・第8課
30. レベル確認テストⅢ(第1課～第8課までを範囲とし、ヒアリングおよび文法の総合テストを最終授業で実施)

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験(4級・準4級)(最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵)に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第1回～第6回、第8回～第17回、第19回～第29回の内容について、統一テキストを使用して、まず教員による講義を行う。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第7回、第18回、第30回において、到達度を測るテストを実施する。それにより、教授された知識が受講者に正しく定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、毎回PC等を準備しておくこと。
- ・チームコードは担当教員より、manabaまたは教務情報ポータルにて事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	4560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典【第3版】
著者名	北京・商務印書館, 小学館共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7305	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語 I				
担当教員（ローマ字表記）	北島 大悟				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

中国語 I

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音、および初級文法を学ぶ。発音の練習、あいさつなど会話の練習、単語や文法の学習を進める。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、発音、会話力、基礎文法、あいさつことば、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の発音を正確に身につけるとともに、文法の基礎を理解し、あいさつや自己紹介などの会話、短い作文などができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

基本的にテキスト1課分を月・木曜、週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

- シラバスを用いたガイダンス及びウォーミングアップ
- 発音 声調・単母音
- 発音 複母音・子音(1)
- 発音 子音(2)(3)・鼻母音
- 発音 その他補足事項
- 発音の総復習
- レベル確認テストI（発音）
- 第1課 こんにちは！（語彙・ポイント・会話）
- 第1課 自己紹介（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第2課 これはなんですか。（語彙・ポイント・会話）
- 第2課 大山君の部屋（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第3課 何処に行くの。（語彙・ポイント・会話）
- 第3課 コンビニで（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第4課 いくつ食べますか。（語彙・ポイント・会話）
- 第4課 家族写真（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- 第5課 何曜日にバイトがあるの。（語彙・ポイント・会話）
- 第5課 サッカーをする（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
- レベル確認テストII（第1課～第5課）

19. レベル確認テストⅡの解説と総復習
20. 第6課 本日の授業は全部終わりましたか。(語彙・ポイント・会話)
21. 第6課 カラオケ(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
22. 第7課 ご飯を食べましたか。(語彙・ポイント・会話)
23. 第7課 海岸に行く(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
24. 第8課 富士山に登ったことはあるの。(語彙・ポイント・会話)
25. 第8課 北京が好き。(トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認)
26. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 発音～第2課
27. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第3課・第4課
28. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第5課・第6課
29. テキスト・別冊ドリルを用いての総復習 第7課・第8課
30. レベル確認テストⅢ(第1課～第8課までを範囲とし、ヒアリングおよび文法の総合テストを最終授業で実施)

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験(4級・準4級)(最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵)に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第1回～第6回、第8回～第17回、第19回～第29回の内容について、統一テキストを使用して、まず教員による講義を行う。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第7回、第18回、第30回において、到達度を測るテストを実施する。それにより、教授された知識が受講者に正しく定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、毎回PC等を準備しておくこと。
- ・チームコードは担当教員より、manabaまたは教務情報ポータルにて事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	4560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典【第3版】
著者名	北京・商務印書館, 小学館共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7401	ナンバリング	KB-KOR-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語 I				
担当教員（ローマ字表記）	糟谷 政和（Kasuya Masakazu）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

朝鮮語 I

授業の概要/Course Overview

最初に韓国・朝鮮語の文字と発音を学びます。主に話す・聞く・書く・読むことを繰り返し練習することにより、基礎的な能力を身につけます。さらに理解を深めるために、歌や映画を視聴することにより、朝鮮半島の社会・文化・歴史にも触れます。

キーワード/Keyword(s)

韓国語、朝鮮語、文字と発音、基礎的な文法、基礎的な会話、簡単な文章の読解、朝鮮半島の文化。

到達目標/Learning Objectives

- 1.韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得できる。
- 2.韓国語・朝鮮語の文法を修得できる。
- 3.簡単な文章の読解や作文ができる。
- 4.朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス及び文字と発音の概略の説明

第2回：文字と発音(1) 母音 I

第3回：文字と発音(1) 母音 II

第4回：文字と発音(2) 子音 I

第5回：文字と発音(2) 子音 II

第6回：文字と発音(2) 子音 III

第7回：文字と発音(3) 終声(バッチム)

第8回：文字と発音(3) 連音化

第9回：文字と発音：総合練習

第10回：指定詞：～です/～ですか

第11回：助詞(1) ～は

第12回：指示詞：この/その/あの

第13回：存在詞：います/あります

第14回：助詞(2) ～が/～に/～も

第15回：第一回確認テスト

第16回：文化理解I

第17回：用言文：～ます/～ますか

第18回：助詞(3) ～を/～で;から

第19回：数詞(1) 漢語系数詞

第20回：数詞(1) 漢語系数詞とともに使う助数詞
第21回：否定形(1) 用言文の否定形：～ない
第22回：否定形(2) 名詞文の否定形：～ではない
第23回：文化理解II
第24回：数詞(2) 固有語系数詞
第25回：数詞(2) 固有語系数詞とともに使う助数詞
第26回：尊敬形：～れる/～られる
第27回：特殊な尊敬形
第28回：助詞(4) ～から～まで
第29回：文化理解III
第30回：第二回確認テスト

【授業外学修】

- (1)各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2)ハングル文字の読み・書き練習を繰り返し、音と形の両方から覚えるようにします。CDを使った聞く練習も有効でしょう。
- (3)毎回の授業の後、単語や表現を繰り返し練習して覚えることが大切です。
- (4)平素から K-POP や韓国の映画、ドラマなど韓国文化に興味を持ち、韓国・朝鮮語に自然に接するようにしましょう。

【アクティブラーニング】

- (1)「双方向型問題演習」として、読み、書き、聞く力をつけるための小テストに取り組んでもらいます。採点した結果を返却して解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。
- (2)文法講義の後「双方向型問題演習」として、表現練習問題と作文練習の作成を行います。答案はチェックを入れ返却し間違ったところを直してもらいます。
- (3)会話練習では実際の会話能力を身につけるために学生同士の「ロールプレイ」を実施します。二人でペアを組み自然に言えるように練習します。
- (4)第16回・23回・29回目の授業では映像を使って朝鮮半島の文化と歴史に触れます。
- (5)第15回と第30回では「振り返り」として確認テストを実施します。

履修上の注意/Notes

この授業は教員による講義のほか、学生同士のグループワークや映像を使った学習などを含んでいるので、授業に積極的に参加する態度が重要です。

情報端末の活用

全員一律での利用は特に予定していません。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト：50%、小テスト：30%、レポート：10%。平常点：10%。16回目の期末試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	ことばの架け橋：韓国朝鮮語初級テキスト
著者名	生越直樹, 曹喜澈著
出版社	白帝社
出版年	2011
ISBN	4863980515
教材費	

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7402	ナンバリング	KB-KOR-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語 I				
担当教員（ローマ字表記）	XU JIN (Jin Xu)				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

朝鮮語 I

授業の概要/Course Overview

最初に韓国・朝鮮語の文字と発音を学びます。主に話す・聞く・書く・読むことを繰り返し練習することにより、基礎的な能力を身につけます。さらに理解を深めるために、歌や映画を視聴することにより、朝鮮半島の社会・文化・歴史にも触れます。

キーワード/Keyword(s)

韓国語、朝鮮語、文字と発音、基礎的な文法、基礎的な会話、簡単な文章の読解、朝鮮半島の文化。

到達目標/Learning Objectives

- 1.韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得できる。
- 2.韓国語・朝鮮語の文法を修得できる。
- 3.簡単な文章の読解や作文ができる。
- 4.朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス及び文字と発音の概略の説明

第2回：文字と発音(1) 母音 I

第3回：文字と発音(1) 母音 II

第4回：文字と発音(2) 子音 I

第5回：文字と発音(2) 子音 II

第6回：文字と発音(2) 子音 III

第7回：文字と発音(3) 終声(バッチム)

第8回：文字と発音(3) 連音化

第9回：文字と発音：総合練習

第10回：指定詞：～です/～ですか

第11回：助詞(1) ～は

第12回：指示詞：この/その/あの

第13回：存在詞：います/あります

第14回：助詞(2) ～が/～に/～も

第15回：第一回確認テスト

第16回：文化理解I

第17回：用言文：～ます/～ますか

第18回：助詞(3) ～を/～で;から

第19回：数詞(1) 漢語系数詞

第20回：数詞(1) 漢語系数詞とともに使う助数詞
第21回：否定形(1) 用言文の否定形：～ない
第22回：否定形(2) 名詞文の否定形：～ではない
第23回：文化理解II
第24回：数詞(2) 固有語系数詞
第25回：数詞(2) 固有語系数詞とともに使う助数詞
第26回：尊敬形：～れる/～られる
第27回：特殊な尊敬形
第28回：助詞(4) ～から～まで
第29回：文化理解III
第30回：第二回確認テスト

【授業外学修】

- (1)各回の授業外学修(復習など)には90分程度の時間が必要です。
- (2)ハングル文字の読み・書き練習を繰り返し、音と形の両方から覚えるようにします。CDを使った聞く練習も有効でしょう。
- (3)毎回の授業の後、単語や表現を繰り返し練習して覚えることが大切です。
- (4)平素から K-POP や韓国の映画、ドラマなど韓国文化に興味を持ち、韓国・朝鮮語に自然に接するようにしましょう。

【アクティブラーニング】

- (1)「双方向型問題演習」として、読み、書き、聞く力をつけるための小テストに取り組んでもらいます。採点した結果を返却して解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。
- (2)文法講義の後「双方向型問題演習」として、表現練習問題と作文練習の作成を行います。答案はチェックを入れ返却し間違ったところを直してもらいます。
- (3)会話練習では実際の会話能力を身につけるために学生同士の「ロールプレイ」を実施します。二人でペアを組み自然に言えるように練習します。
- (4)第16回・23回・29回目の授業では映像を使って朝鮮半島の文化と歴史に触れます。
- (5)第15回と第30回では「振り返り」として確認テストを実施します。

履修上の注意/Notes

この授業は教員による講義のほか、学生同士のグループワークや映像を使った学習などを含んでいるので、授業に積極的に参加する態度が重要です。

情報端末の活用

全員一律での利用は特に予定していません。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト：50%、小テスト：30%、レポート：10%。平常点：10%。16回目の期末試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	ことばの架け橋：韓国朝鮮語初級テキスト
著者名	生越直樹, 曹喜澈著
出版社	白帝社
出版年	2011
ISBN	4863980515
教材費	

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7501	ナンバリング	KB-SPA-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スペイン語 I				
担当教員（ローマ字表記）	福田 大治（Fukuda Daiji）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

スペイン語I

授業の概要/Course Overview

スペイン語の入門クラス。スペイン語は英語、中国語などに次いで話者数の多い言語であり、その数は少なく見積もっても4億人に及ぶと言われている。習得した者にはそれだけの世界が広がるということ。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

キーワード/Keyword(s)

スペイン語、スペイン、スペイン語圏アメリカ（いわゆるラテンアメリカ・カリブ諸国、近年ではアメリカ合衆国も含む）、動詞ser、動詞estar、規則活用動詞。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスによるガイダンスとイントロダクション：スペイン語およびスペイン語諸国について
- 第2回：スペイン語のアルファベット、発音
- 第3回：アクセントの法則、簡単なあいさつ
- 第4回：名詞と形容詞の特徴と使い方
- 第5回：主語になる人称代名詞
- 第6回：動詞serの現在形活用
- 第7回：動詞serを使った日常表現
- 第8回：動詞serを使った出身地・出自表現
- 第9回：動詞estarの現在形活用
- 第10回：動詞estarを使った場所表現
- 第11回：動詞estarを使った日常表現
- 第12回：動詞serとestarの相違
- 第13回：3人称活用のみの特異動詞haber（～がある、いる）
- 第14回：定冠詞と不定冠詞、基数（0～10）
- 第15回：規則活用動詞(-ar)の用法
- 第16回：規則活用動詞(-er)の用法
- 第17回：規則活用動詞(-ir)の用法
- 第18回：規則活用動詞を使った日常表現

- 第19回：tener（持つ）の現在形活用
- 第20回：ir（行く）とvenir（来る）の現在形活用
- 第21回：曜日・時刻表現、時間連のボキャブラリー
- 第22回：基数（11～100）と年齢表現
- 第23回：動詞querer（～がほしい、～したい）
- 第24回：動詞poderとsaber（～できる）の使い分け
- 第25回：動詞conocerとsaber（知っている）の使い分け
- 第26回：直接目的語になる代名詞（～を）
- 第27回：間接目的語になる代名詞（～に）
- 第28回：gustar型動詞（～にとって好ましい＝～が好きである）
- 第29回：gustar型動詞を使った日常表現
- 第30回：前学期のまとめ

【授業外学修】

- (1)各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2)第2回から第29回まで毎回、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。一部は宿題（ミニ・レポート）にもなりますから、辞書を使った予習・復習を行うことが大切です。英語とは辞書の引き方が異なるため、授業内に適宜辞書の使い方を解説します。
- (3)ラジオ・テレビ教材、問題集を通じた語学の習得方法、生きたスペイン語に接するための映画・音楽・ニュース媒体等を授業で紹介します。語学の背景であるスペイン語圏の文化にも積極的に触れてください。

【アクティブラーニング】

第2回から第29回まで、毎回「双方向型問題演習」を行います。

履修上の注意/Notes

新しく学ぶ外国語であるからには、毎回の出席が義務付けられる。遅刻は厳禁。やむをえず欠席の際には、その回の内容について必ず教科書等で自習しておくこと。また、不明な事項があれば授業内または授業後に質問の上で、次回までに疑問点を残さないこと。

情報端末の活用

全員一律での活用は予定していません。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業内での課題演習（合計50%）と項目ごと的小テスト（合計50%）とを合わせて総合的に評価する。16週目の期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	動く！スペイン語
著者名	福嶋教隆 著

出版社	朝日出版社
出版年	2008
ISBN	4255550239
教材費	2600

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0701	ナンバリング	KB-GER-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金7	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	ドイツ語基礎 I				
担当教員 (ローマ字表記)	大久保 清美				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

ドイツ語基礎 I

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、ドイツ語の初歩をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら練習問題に挑戦し、文法事項の確認をおこないます。練習問題は、宿題 (レポート) にもなります。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語を理解し、聞き、話すことができるよう、規則・不規則動詞の現在時制など、ドイツ語技能検定試験 (略称「独検」) 5級で求められる学修内容を修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

(01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス。

【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、用意すること。

(02) 【授業内容】 Das Alphabet, Aussprache(発音)。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(03) 【授業内容】 人称代名詞と不定詞、定動詞の現在人称変化。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(04) 【授業内容】 定動詞の位置・語順、seinの現在人称変化。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(05) 【授業内容】 名詞の性、名詞の格。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(06) 【授業内容】 冠詞の変化、habenの現在人称変化。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(07) 【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(08) 【授業内容】 復習。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(09) 【授業内容】 名詞の複数形、男性弱変化名詞と例外的な名詞、人称代名詞の3格・4格。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】不規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】命令形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】不定冠詞類。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】定冠詞類。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

*第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

*第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

*予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

*ラーニング・コモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。6回休んだら単位は認定されません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	つながるドイツ語 みっとりーべ
著者名	中村修ほか
出版社	朝日出版社
出版年	2019
ISBN	9784255254210
教材費	2860

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	《最新版》ドイツの街角から ～素顔のドイツ その文化・歴史・社会～
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△

社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7151	ナンバリング	KB-GER-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	小泉 淳二, 市川 宏子 (ichikawa hiroko)				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、前学期のドイツ語Ⅰに引きつづき、ドイツ語をはじめて学びみなさんに、ドイツ語の基礎をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら練習問題と会話テキストに挑戦し、文法事項の確認ならびに表現練習をおこないます。練習問題は、宿題（レポート）にもなります。この授業は、月2と木4に同一クラスで週2回ずつおこないます。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①基礎的なドイツ語を理解し、平易なドイツ語を聞き、話し、読み、書くことができるよう、動詞の過去時制や未来時制など、ドイツ語技能検定試験（略称「独検」）4級で求められる学修内容を修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

(01) 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。

【授業外学修】シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。

(02) 【授業内容】文字と発音。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(03) 【授業内容】規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(04) 【授業内容】重要な不規則動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(05) 【授業内容】名詞の性。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(06) 【授業内容】定冠詞と不定冠詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(07) 【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(08) 【授業内容】復習。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(09)【授業内容】複数形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】不規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】命令形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】定冠詞類と不定冠詞類。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】人称代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

(16)【授業内容】前置詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(17)【授業内容】従属接続詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(18)【授業内容】話法の助動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(19)【授業内容】未来形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(20)【授業内容】分離動詞、再帰動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(21)【授業内容】形容詞、比較表現。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(22)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(23)【授業内容】復習。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(24)【授業内容】過去形。

【授業外学修】教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(25)【授業内容】完了形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(26)【授業内容】zu不定詞、分詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(27)【授業内容】指示代名詞、関係代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(28)【授業内容】接続法。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(29)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(30)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解

説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

*ラーニング・コモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。11回休んだら単位は認定されません。この授業は週に2回連動式におこないますので、月曜または木曜の授業だけを単独で履修することはできません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：基礎的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：基礎的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：基礎的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：基礎的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：基礎的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	お菓子で学ぶドイツ語
著者名	小野森都子ほか
出版社	朝日出版社
出版年	2018
ISBN	9784255254135
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）
著者名	森公成ほか
出版社	同学社

出版年	2017
ISBN	9784810208870
教材費	2200

参考書2

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書4

書名	《最新版》ドイツの街角から ～=素顔のドイツ その文化・歴史・社会～
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7152	ナンバリング	KB-GER-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	勝山 紘子, 未定 (katsuyama Hiroko)				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、前学期のドイツ語Ⅰに引きつづき、ドイツ語をはじめて学びみなさんに、ドイツ語の基礎をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら練習問題と会話テキストに挑戦し、文法事項の確認ならびに表現練習をおこないます。練習問題は、宿題（レポート）にもなります。この授業は、月2と木4に同一クラスで週2回ずつおこないます。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①基礎的なドイツ語を理解し、平易なドイツ語を聞き、話し、読み、書くことができるよう、動詞の過去時制や未来時制など、ドイツ語技能検定試験（略称「独検」）4級で求められる学修内容を修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

(01) 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス。

【授業外学修】シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。

(02) 【授業内容】文字と発音。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(03) 【授業内容】規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(04) 【授業内容】重要な不規則動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(05) 【授業内容】名詞の性。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(06) 【授業内容】定冠詞と不定冠詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(07) 【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(08) 【授業内容】復習。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(09)【授業内容】複数形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】不規則動詞の現在人称変化。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】命令形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】定冠詞類と不定冠詞類。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】人称代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

(16)【授業内容】前置詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(17)【授業内容】従属接続詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(18)【授業内容】話法の助動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(19)【授業内容】未来形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(20)【授業内容】分離動詞、再帰動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(21)【授業内容】形容詞、比較表現。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(22)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(23)【授業内容】復習。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(24)【授業内容】過去形。

【授業外学修】教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(25)【授業内容】完了形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(26)【授業内容】zu不定詞、分詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(27)【授業内容】指示代名詞、関係代名詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(28)【授業内容】接続法。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(29)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(30)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解

説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

*ラーニング・コモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。11回休んだら単位は認定されません。この授業は週に2回連動式におこないますので、月曜または木曜の授業だけを単独で履修することはできません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：基礎的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：基礎的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：基礎的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：基礎的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：基礎的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	お菓子で学ぶドイツ語
著者名	小野森都子ほか
出版社	朝日出版社
出版年	2018
ISBN	9784255254135
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）
著者名	森公成ほか
出版社	同学社

出版年	2017
ISBN	9784810208870
教材費	2200

参考書2

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書4

書名	《最新版》ドイツの街角から ～=素顔のドイツ その文化・歴史・社会～
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7251	ナンバリング	KB-FRE-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	フランス語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	藤原 貞朗				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

フランス語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

50時間程度のフランス語の学習経験がある学生を対象に、フランス語による実践的なコミュニケーション能力の基礎を固めます。基礎的な文章から言葉の仕組みを学び、練習問題をこなすことによって、基礎的なフランス語を読み、書き、話し、聞くことができるようになります。

キーワード/Keyword(s)

仏検4級、基礎的なフランス語、実践的コミュニケーション能力、半過去、単純未来、条件法、接続法。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスによるガイダンスと、「フランス語Ⅰ」の学習事項の復習。

第2回：比較級の説明と簡単な練習

第3回：最上級の説明と簡単な練習

第4回：動詞connaîtreとsavoirの説明と簡単な練習

第5回：比較級と最上級を使ったさまざまな会話練習

第6回：直接・間接目的語人称代名詞の説明と簡単な練習

第7回：動詞vouloirとpouvoirの説明と簡単な練習

第8回：目的語人称代名詞を使ったいろいろな練習

第9回：まとめ、その一

第10回：代名動詞の説明と簡単な練習

第11回：疑問代名詞quiとqueの説明と簡単な練習

第12回：非人称構文の説明と簡単な練習

第13回：代名動詞を使ったさまざまな練習

第14回：「何をしているの？」という質問に答える会話練習

第15回：複合過去の説明と簡単な練習

第16回：代名動詞の複合過去の説明と簡単な練習

第17回：複合過去を使ったさまざまな練習

第18回：複合過去を使った発展練習

- 第19回：「昨日は何をしましたか？」の質問に答える会話練習
第20回：まとめ、その二
第21回：半過去と大過去の説明と簡単な練習
第22回：半過去と複合過去とを使い分ける簡単な練習
第22回：半過去と大過去と複合過去とを使うさまざまな練習
第23回：「小さい頃、どんな子供だったの？」という質問に答える会話練習
第24回：単純未来の説明と簡単な練習
第25回：非人称構文(2)の説明
第26回：単純未来を使ったさまざまな練習
第27回：関係代名詞の説明と簡単な練習
第28回：条件法の説明と簡単な練習
第29回：接続法の説明と簡単な練習
第30回：総まとめ

授業外学修】

一回90分の授業をきちんと理解するには、120分の自宅学習が必要です。そのためには、

- (1)まずは、指示された課題等を予習として必ず行ってください。予習には辞書あるいは電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べましょう。どの訳語がいいかわからないなど、理解できない箇所は赤ペンでチェックし、次の授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。
- (2)ほぼ毎回の授業で「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいますので、復習として本文や例文を何度も繰り返し、声を出して文章を読んで、基本文を暗記するようにしましょう。
- (3)また、書き取り（聞いただけでフランス語が書けるかどうか）の練習も積み重ねてください。特に動詞の活用は何度も練習して、必ず暗記（書いて、言えるように）してください。その他、基本表現を含む短文をいくつも暗記することも有効です。
- (4)さらにフランス語力をつけたい人は各種参考書（後述）を読み、練習問題を行ってください。実用フランス語技能検定試験5級の問題集（茨城大学付属図書館にあります）に挑戦してみるのもお勧めです

【アクティブラーニング】

第2回から第8回、第10回から第19回、第21回から第29回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。これらはいずれも解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。

第5回、第14回、第19回、第23回に行われる会話練習とは「ロール・プレイング」です。

履修上の注意/Notes

この科目は週2回の授業です。遅刻は厳禁。早めに教室に入るようにしましょう。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：平易なフランス語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。
A：平易なフランス語を修得し、その構造を理解している。
B：平易なフランス語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。
C：平易なフランス語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。
D：平易なフランス語を修得することができておらず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

学期中に数回行われる確認テスト（合計100％）で成績評価します。いわゆる期末試験（16週目に実施）は行いません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	バンド・デシネでフランス語。
著者名	神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	『コレクションフランス語』2. 初級
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

参考書2

書名	『コレクションフランス語』3. 文法
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7351	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	李立冰（L i）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音を復習し、続けてレベルの文法事項を前学期に続いて学ぶ。単語や文法を学び、初級会話の練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

前学期に引き続き、初級文法を理解し、初級レベルの会話や簡単な翻（通）訳ができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

*本授業は、テキスト1課分を月曜日と木曜日の週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

1. シラバスを用いたガイダンスおよび前期の簡単な復習
2. 第9課 なにをしているの。（語彙・ポイント・会話）
3. 第9課 運転を学ぶ。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
4. 第10課 ご趣味は。（語彙・ポイント・会話）
5. 第10課 交流会（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
6. 第11課 この靴はどう。（語彙・ポイント・会話）
7. 第11課 アニメ（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
8. 第12課 お誕生日おめでとう！（語彙・ポイント・会話）
9. 第12課 服を買う。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
10. レベル確認テストⅠ（範囲：第9課～第12課）
11. レベル確認テストⅠの解説と総復習
12. 第13課 映画は間もなく始まるのでしょうか。（語彙・ポイント・会話）
13. 第13課 冬休みの宿題をする。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
14. 第14課 早く上に行きましょう。（語彙・ポイント・会話）
15. 第14課 お母さんからのメール（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
16. 第15課 ぜひ上海にいらしてください。（語彙・ポイント・会話）
17. 第15課 送別（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
18. レベル確認テストⅡ（範囲：第13課～第15課）
19. レベル確認テストⅡの解説と総復習

20. 付録1 高木さんの自己紹介
21. 付録2 王静さんから大山さんへのメール
23. 付録3 中国語で答えよう!
24. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第10課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第11課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第12課
26. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第13課
27. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第14課
28. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第15課
29. 後学期学修範囲の総復習
30. レベル確認テストⅢ（後学期履修した課全体を範囲とし、文法・ヒアリングの総合テストを最終授業日に実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～第9回、第11回～第17回、第19回～第29回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第10回、第18回、第30回については、到達度を測るテストを実施する。それにより教授された知識が、受講者にしっかり定着したのかを明らかにする、

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業で実施する場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	9784560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

参考書3

書名	中検3級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984146
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7352	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	王 克西				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音を復習し、続けてレベルの文法事項を前学期に続いて学ぶ。単語や文法を学び、初級会話の練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

前学期に引き続き、初級文法を理解し、初級レベルの会話や簡単な翻（通）訳ができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

*本授業は、テキスト1課分を月曜日と木曜日の週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

1. シラバスを用いたガイダンスおよび前期の簡単な復習
2. 第9課 なにをしているの。（語彙・ポイント・会話）
3. 第9課 運転を学ぶ。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
4. 第10課 ご趣味は。（語彙・ポイント・会話）
5. 第10課 交流会（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
6. 第11課 この靴はどう。（語彙・ポイント・会話）
7. 第11課 アニメ（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
8. 第12課 お誕生日おめでとう！（語彙・ポイント・会話）
9. 第12課 服を買う。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
10. レベル確認テストⅠ（範囲：第9課～第12課）
11. レベル確認テストⅠの解説と総復習
12. 第13課 映画は間もなく始まるのでしょうか。（語彙・ポイント・会話）
13. 第13課 冬休みの宿題をする。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
14. 第14課 早く上に行きましょう。（語彙・ポイント・会話）
15. 第14課 お母さんからのメール（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
16. 第15課 ぜひ上海にいらしてください。（語彙・ポイント・会話）
17. 第15課 送別（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
18. レベル確認テストⅡ（範囲：第13課～第15課）
19. レベル確認テストⅡの解説と総復習

20. 付録1 高木さんの自己紹介
21. 付録2 王静さんから大山さんへのメール
23. 付録3 中国語で答えよう!
24. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第10課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第11課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第12課
26. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第13課
27. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第14課
28. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第15課
29. 後学期学修範囲の総復習
30. レベル確認テストⅢ（後学期履修した課全体を範囲とし、文法・ヒアリングの総合テストを最終授業日に実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～第9回、第11回～第17回、第19回～第29回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第10回、第18回、第30回については、到達度を測るテストを実施する。それにより教授された知識が、受講者にしっかり定着したのかを明らかにする、

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業で実施する場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	9784560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

参考書3

書名	中検3級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984146
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7353	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	吉川 虹緒				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音を復習し、続けてレベルの文法事項を前学期に続いて学ぶ。単語や文法を学び、初級会話の練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

前学期に引き続き、初級文法を理解し、初級レベルの会話や簡単な翻（通）訳ができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

*本授業は、テキスト1課分を月曜日と木曜日の週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

1. シラバスを用いたガイダンスおよび前期の簡単な復習
2. 第9課 なにをしているの。（語彙・ポイント・会話）
3. 第9課 運転を学ぶ。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
4. 第10課 ご趣味は。（語彙・ポイント・会話）
5. 第10課 交流会（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
6. 第11課 この靴はどう。（語彙・ポイント・会話）
7. 第11課 アニメ（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
8. 第12課 お誕生日おめでとう！（語彙・ポイント・会話）
9. 第12課 服を買う。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
10. レベル確認テストⅠ（範囲：第9課～第12課）
11. レベル確認テストⅠの解説と総復習
12. 第13課 映画は間もなく始まるのでしょうか。（語彙・ポイント・会話）
13. 第13課 冬休みの宿題をする。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
14. 第14課 早く上に行きましょう。（語彙・ポイント・会話）
15. 第14課 お母さんからのメール（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
16. 第15課 ぜひ上海にいらしてください。（語彙・ポイント・会話）
17. 第15課 送別（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
18. レベル確認テストⅡ（範囲：第13課～第15課）
19. レベル確認テストⅡの解説と総復習

20. 付録1 高木さんの自己紹介
21. 付録2 王静さんから大山さんへのメール
23. 付録3 中国語で答えよう!
24. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第10課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第11課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第12課
26. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第13課
27. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第14課
28. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第15課
29. 後学期学修範囲の総復習
30. レベル確認テストⅢ（後学期履修した課全体を範囲とし、文法・ヒアリングの総合テストを最終授業日に実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～第9回、第11回～第17回、第19回～第29回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第10回、第18回、第30回については、到達度を測るテストを実施する。それにより教授された知識が、受講者にしっかり定着したのかを明らかにする、

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業で実施する場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	9784560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

参考書3

書名	中検3級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984146
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7354	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	西野 由希子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

中国語入門～初級のクラス。

月曜及び木曜に行う。

中国語の基礎となる発音を復習し、続けてレベルの文法事項を前学期に続いて学ぶ。単語や文法を学び、初級会話の練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

初級中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

前学期に引き続き、初級文法を理解し、初級レベルの会話や簡単な翻（通）訳ができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

*本授業は、テキスト1課分を月曜日と木曜日の週2回に分けて行い、合計30コマ分を実施する。

1. シラバスを用いたガイダンスおよび前期の簡単な復習
2. 第9課 なにをしているの。（語彙・ポイント・会話）
3. 第9課 運転を学ぶ。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
4. 第10課 ご趣味は。（語彙・ポイント・会話）
5. 第10課 交流会（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
6. 第11課 この靴はどう。（語彙・ポイント・会話）
7. 第11課 アニメ（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
8. 第12課 お誕生日おめでとう！（語彙・ポイント・会話）
9. 第12課 服を買う。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
10. レベル確認テストⅠ（範囲：第9課～第12課）
11. レベル確認テストⅠの解説と総復習
12. 第13課 映画は間もなく始まるのでしょうか。（語彙・ポイント・会話）
13. 第13課 冬休みの宿題をする。（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
14. 第14課 早く上に行きましょう。（語彙・ポイント・会話）
15. 第14課 お母さんからのメール（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
16. 第15課 ぜひ上海にいらしてください。（語彙・ポイント・会話）
17. 第15課 送別（トレーニングAを用いての復習・講読・トレーニングBを用いての確認）
18. レベル確認テストⅡ（範囲：第13課～第15課）
19. レベル確認テストⅡの解説と総復習

20. 付録1 高木さんの自己紹介
21. 付録2 王静さんから大山さんへのメール
23. 付録3 中国語で答えよう!
24. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第10課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第11課
25. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第12課
26. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第13課
27. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第14課
28. 教科書・別冊ドリルを用いての総復習 第15課
29. 後学期学修範囲の総復習
30. レベル確認テストⅢ（後学期履修した課全体を範囲とし、文法・ヒアリングの総合テストを最終授業日に実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～第9回、第11回～第17回、第19回～第29回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第10回、第18回、第30回については、到達度を測るテストを実施する。それにより教授された知識が、受講者にしっかり定着したのかを明らかにする、

履修上の注意/Notes

- ・授業2回で1課のペースで進める。上記のレベル確認テストⅠ、Ⅱは担当教員ごとに、Ⅲは統一の記述式テストをそれぞれ実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業で実施する場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストⅠ：20%、Ⅱ：40%、Ⅲ：40%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	《改訂版》さあ、中国語を学ぼう！ 会話・講読
著者名	竹島毅ほか著
出版社	白水社
出版年	2022
ISBN	9784560069424
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

参考書3

書名	中検3級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984146
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	

時間割コード	KB7451	ナンバリング	KB-KOR-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	糟谷 政和（Kasuya Masakazu）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

朝鮮語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

初級レベルの韓国・朝鮮語を学習します。朝鮮語Ⅰで学んだ基礎的な知識に加え、より広い範囲の表現を可能にする文法や語彙を学習します。さらに実践的なコミュニケーションスキルを身につけるためにアクティブ・ラーニングに基づいた多様な活動を行います。

キーワード/Keyword(s)

韓国・朝鮮語、アクティブ・ラーニング、文法・語彙、コミュニケーションスキル、朝鮮半島の文化・社会・歴史、検定試験初級。

到達目標/Learning Objectives

- 1.韓国・朝鮮語の理解をより確実なものとするができる。
 - 2.韓国・朝鮮語のコミュニケーション能力をより確実なものとするができる。
 - 3.朝鮮半島の文化・社会・歴史への理解をさらに深めることができる。
 - 4.検定試験初級程度の能力を身につけることができる。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：ガイダンス及び前期「Ⅰ」の復習
第2回：第9課【連用形】用言の連用形
第3回：第9課【連用形】連用形の縮約形
第4回：第9課【連用形】表現練習と作文練習
第5回：第10課【□□体】用言文と名詞文の「□□」体
第6回：第10課【□□体】否定形（2）と助詞（5）
第7回：第10課【□□体】表現練習と作文練習
第8回：第11課【□□体の尊敬形】「□□」体の尊敬形
第9回：第11課【□□体の尊敬形】助詞（6）
第10回：第11課【□□体の尊敬形】表現練習と作文練習
第11回：総合練習（2）
第12回：第一回確認テスト
第13回：韓国・朝鮮文化の理解（1）
第14回：第12課【過去形】用言文と尊敬の過去形
第15回：第12課【過去形】助詞（7）
第16回：第12課【過去形】表現練習と作文練習
第17回：第13課【連体形1】現在・過去連体形
第18回：第13課【連体形1】未来・回想連体形

- 第19回：第13課【連体形1】身体名称
- 第20回：第13課【連体形1】表現練習と作文練習
- 第21回：第14課【連体形2】現在・過去・未来連体形
- 第22回：第14課【連体形2】未来意志形
- 第23回：第14課【連体形2】表現練習と作文練習
- 第24回：第15課【口語幹】口語幹
- 第25回：第15課【口語幹】原因・動作の先行
- 第26回：第15課【口語幹】不可能表現
- 第27回：第15課【口語幹】表現練習と作文練習
- 第28回：総合練習（3）
- 第29回：韓国・朝鮮文化の理解（2）
- 第30回：第二回確認テスト

【授業外学修】

- (1)各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2)ハングル文字の読み・書き練習を繰り返し、音と形の両方から覚えるようにします。CDを使った聞く練習も有効でしょう。
- (3)毎回の授業の後、単語や表現を繰り返し練習して覚えることが大切です。
- (4)平素からK-POPや韓国の映画、ドラマなど韓国文化に興味を持ち、韓国・朝鮮語に自然に接するようにしましょう。

【アクティブラーニング】

- (1)「双方向型問題演習」として、読み、書き、聞く力をつけるための小テストに取り組んでもらいます。採点した結果を返却して解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。
- (2)文法講義の後「双方向型問題演習」として、表現練習問題と作文練習の作成を行います。答えはチェックを入れ返却し間違ったところを直してもらいます。
- (3)会話練習では実際の会話能力を身につけるために学生同士の「ロールプレイ」を実施します。二人でペアを組み自然に言えるように練習します。
- (4)第16回・29回目の授業では映像を使って朝鮮半島の文化と歴史に触れます
- (5)第15回と第30回では「振り返り」として確認テストを実施します。

履修上の注意/Notes

この授業は教員による講義のほか、学生同士のグループワークや映像を使った学習なども含んでいるので、授業に積極的に参加する態度が重要です。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：平易な朝鮮語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。
- A：平易な朝鮮語を修得し、その構造を理解している。
- B：平易な朝鮮語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。
- C：平易な朝鮮語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。
- D：平易な朝鮮語を修得することができておらず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト：50%、小テスト：30%、レポート：10%、平常点：10%。16回目の期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	ことばの架け橋：韓国朝鮮語初級テキスト
著者名	生越直樹, 曹喜澈著
出版社	白帝社
出版年	2011
ISBN	4863980515
教材費	

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7551	ナンバリング	KB-SPA-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月2,木4	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スペイン語Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	福田 大治（Fukuda Daiji）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

スペイン語Ⅱ

授業の概要/Course Overview

スペイン語の初級クラス（前期の「スペイン語Ⅰ」の次の段階）。スペイン語は英語、中国語などに次いで話者数の多い言語であり、その数は少なく見積もっても4億人に及ぶと言われている。習得した者にはそれだけの世界が広がるということ。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

キーワード/Keyword(s)

スペイン語、スペイン、スペイン語圏アメリカ（いわゆるラテンアメリカ・カリブ諸国、近年ではアメリカ合衆国も含む）、比較表現、過去表現、再帰動詞。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスによるガイダンスと前学期の復習（第1課～第3課）

第2回：前学期の復習（第4課～第5課）

第3回：所有詞の使い方（前置形と後置形）

第4回：指示形容詞と指示代名詞

第5回：主語になる人称代名詞

第6回：比較表現（比較級）

第7回：比較表現（最上級）

第8回：不規則な比較語を使った表現

第9回：過去表現1（現在完了形）

第10回：現在完了形を使った日常表現

第11回：過去表現2（点過去）

第12回：点過去を使った日常表現

第13回：過去表現3（線過去）

第14回：線過去を使った日常表現

第15回：過去表現における時制一致の法則

第16回：基数（101～1億）

第17回：現在分詞と現在進行形

第18回：現在進行形を使った日常表現

- 第19回：hacerを使った天候表現
- 第20回：不定語と否定語
- 第21回：過去分詞を使った受動文（～される）
- 第22回：受動文を使った日常表現
- 第23回：再帰動詞の概念
- 第24回：再帰代名詞と再帰動詞の使い方
- 第25回：再帰動詞を使った日常表現
- 第26回：再帰動詞の派生用法1（相互、強調）
- 第27回：再帰動詞の派生用法2（無人称、受け身）
- 第28回：命令法と関係詞
- 第29回：不定詞を使った日常表現
- 第30回：後学期のまとめ

【授業外学修】

- (1)各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2)第2回から第29回まで毎回、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。一部は宿題（ミニ・レポート）にもなりますから、辞書を使った予習・復習を行うことが大切です。英語とは辞書の引き方が異なるため、授業内に適宜辞書の使い方を解説します。
- (3)ラジオ・テレビ教材、問題集を通じた語学の習得方法、生きたスペイン語に接するための映画・音楽・ニュース媒体等を授業で紹介します。語学の背景であるスペイン語圏の文化にも積極的に触れてください。

【アクティブラーニング】

第2回から第29回まで、毎回「双方向型問題演習」を行います。

履修上の注意/Notes

新しく学ぶ外国語であるからには、毎回の出席が義務付けられる。遅刻は厳禁。やむをえず欠席の際には、その回の内容について必ず教科書等で自習しておくこと。また、不明な事項があれば授業内または授業後に質問の上で、次回までに疑問点を残さないこと。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業内での課題演習（合計50%）と項目ごとの小テスト（合計50%）とを合わせて総合的に評価する。16週目の期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	動く！スペイン語
著者名	福嶋教隆 著

出版社	朝日出版社
出版年	2008
ISBN	4255550239
教材費	2600

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0751	ナンバリング	KB-GER-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	金7	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T (フレックス)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	ドイツ語基礎Ⅱ				
担当教員 (ローマ字表記)	伊藤 満広				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語基礎Ⅱ

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、前学期のドイツ語基礎Ⅰに引きつづき、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、ドイツ語の初歩をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら、練習問題に挑戦し、文法事項の確をおこないます。練習問題は、宿題 (レポート) にもなります。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語を理解し、聞き、話すことができるよう、規則・不規則動詞の現在時制など、ドイツ語技能検定試験 (略称「独検」) 5級で求められる学修内容を修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

- (01) 【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、前学期の復習事項。
【授業外学修】シラバスを事前に熟読し、ドイツ語基礎Ⅰの学修内容を確認すること。
- (02) 【授業内容】前置詞の格支配 (2格支配・3格支配・4格支配)。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (03) 【授業内容】前置詞の格支配 (3・4格支配)、前置詞と定冠詞の融合形。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (04) 【授業内容】分離動詞。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (05) 【授業内容】非分離動詞。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (06) 【授業内容】話法の助動詞。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (07) 【授業内容】復習と進度の調整。
【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (08) 【授業内容】復習。
【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (09) 【授業内容】従属の接続詞。

【授業外学修】教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】zu不定詞句。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】再帰代名詞と再帰動詞。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】動詞の三基本形、過去形。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】現在完了形、補足項目（発展）。

【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】復習と進度の調整。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

* ラーニング・コモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。6回休んだら単位は認定されません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）30%、宿題（レポート）70%。評価の観点「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	つながるドイツ語 みっとりーベ
著者名	中村修ほか
出版社	朝日出版社
出版年	2019
ISBN	9784255254210
教材費	2860

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	《最新版》ドイツの街角から ～素顔のドイツ その文化・歴史・社会～
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△

社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB7161	ナンバリング	KB-GER-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語入門				
担当教員（ローマ字表記）	小沼 喜好（Onuma Kiyoshi）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語入門

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、初級ドイツ語の基礎をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら、会話練習をくり返し、文法事項を確認します。そのあとは作文練習に挑戦します。練習問題は宿題（レポート）にもなります。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

- (01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス、Das Alphabet、発音。
【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。
- (02) 【授業内容】 定型と不定形、Sieとdu。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (03) 【授業内容】 動詞の現在人称変化。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (04) 【授業内容】 不規則動詞sein。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (05) 【授業内容】 不規則動詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (06) 【授業内容】 名詞の生、複数形、冠詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (07) 【授業内容】 復習と進度の調整。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (08) 【授業内容】 復習。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (09) 【授業内容】 人称代名詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】 話法の助動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】 前置詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】 複合動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】 命令形。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】 総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

* ラーニング・モモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。6回休んだら単位は認定されません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新 トライ・ドイツ語 -オンライン授業対応-
著者名	市川宏子ほか
出版社	同学社
出版年	2022
ISBN	9784810207477
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	《最新版》ドイツの街角から ~素顔のドイツ その文化・歴史・社会~
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7162	ナンバリング	KB-GER-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語入門				
担当教員（ローマ字表記）	小川 和彦				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語入門

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、初級ドイツ語の基礎をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら、会話練習をくり返し、文法事項を確認します。そのあとは作文練習に挑戦します。練習問題は宿題（レポート）にもなります。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

*学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

- (01)【授業内容】シラバスを用いたガイダンス、Das Alphabet、発音。
【授業外学修】シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。
- (02)【授業内容】定型と不定形、Sieとdu。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (03)【授業内容】動詞の現在人称変化。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (04)【授業内容】不規則動詞sein。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (05)【授業内容】不規則動詞。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (06)【授業内容】名詞の生、複数形、冠詞。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (07)【授業内容】復習と進度の調整。
【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (08)【授業内容】復習。
【授業外学修】教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (09)【授業内容】人称代名詞。
【授業外学修】教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】 話法の助動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】 前置詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】 複合動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】 命令形。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】 総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

* ラーニング・モモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。6回休んだら単位は認定されません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点は「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新 トライ・ドイツ語 -オンライン授業対応-
著者名	市川宏子ほか
出版社	同学社
出版年	2022
ISBN	9784810207477
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	《最新版》ドイツの街角から ~素顔のドイツ その文化・歴史・社会~
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7163	ナンバリング	KB-GER-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語入門				
担当教員（ローマ字表記）	小沼 喜好（Onuma Kiyoshi）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語入門

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、初級ドイツ語の基礎をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら、会話練習をくり返し、文法事項を確認します。そのあとは作文練習に挑戦します。練習問題は宿題（レポート）にもなります。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

- (01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス、Das Alphabet、発音。
【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。
- (02) 【授業内容】 定型と不定形、Sieとdu。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (03) 【授業内容】 動詞の現在人称変化。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (04) 【授業内容】 不規則動詞sein。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (05) 【授業内容】 不規則動詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (06) 【授業内容】 名詞の生、複数形、冠詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (07) 【授業内容】 復習と進度の調整。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (08) 【授業内容】 復習。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (09) 【授業内容】 人称代名詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】 話法の助動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】 前置詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】 複合動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】 命令形。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】 総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

* ラーニング・モモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。6回休んだら単位は認定されません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点は「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新 トライ・ドイツ語 -オンライン授業対応-
著者名	市川宏子ほか
出版社	同学社
出版年	2022
ISBN	9784810207477
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	《最新版》ドイツの街角から ~素顔のドイツ その文化・歴史・社会~
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7164	ナンバリング	KB-GER-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語入門				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 満広				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語入門

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、初級ドイツ語の基礎をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら、会話練習をくり返し、文法事項を確認します。そのあとは作文練習に挑戦します。練習問題は宿題（レポート）にもなります。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

- (01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス、Das Alphabet、発音。
【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。
- (02) 【授業内容】 定型と不定形、Sieとdu。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (03) 【授業内容】 動詞の現在人称変化。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (04) 【授業内容】 不規則動詞sein。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (05) 【授業内容】 不規則動詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (06) 【授業内容】 名詞の生、複数形、冠詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (07) 【授業内容】 復習と進度の調整。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (08) 【授業内容】 復習。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (09) 【授業内容】 人称代名詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】 話法の助動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】 前置詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】 複合動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】 命令形。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】 総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

* ラーニング・モモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。6回休んだら単位は認定されません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点は「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新 トライ・ドイツ語 -オンライン授業対応-
著者名	市川宏子ほか
出版社	同学社
出版年	2022
ISBN	9784810207477
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	《最新版》ドイツの街角から ~素顔のドイツ その文化・歴史・社会~
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7165	ナンバリング	KB-GER-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	ドイツ語入門				
担当教員（ローマ字表記）	市川 宏子（ichikawa hiroko）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

ドイツ語入門

授業の概要/Course Overview

【世界の俯瞰的理解】、【コミュニケーション力】、この2つの「要素・能力」を身につけるため、この授業では、ドイツ語をはじめて学ぶみなさんに、初級ドイツ語の基礎をできるだけわかりやすく説明します。説明がすんだら、会話練習をくり返し、文法事項を確認します。そのあとは作文練習に挑戦します。練習問題は宿題（レポート）にもなります。

キーワード/Keyword(s)

ドイツ語、独語、初修外国語、文法、ドイツ。

到達目標/Learning Objectives

①初歩的なドイツ語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

* 学事暦が変更された場合には、以下の授業内容を実施するにあたって、適宜調整をおこなう。詳細は初回ガイダンスおよび授業中に説明する。

- (01) 【授業内容】 シラバスを用いたガイダンス、Das Alphabet、発音。
【授業外学修】 シラバスを事前に熟読し、教科書を購入、持参すること。
- (02) 【授業内容】 定型と不定形、Sieとdu。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (03) 【授業内容】 動詞の現在人称変化。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (04) 【授業内容】 不規則動詞sein。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (05) 【授業内容】 不規則動詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (06) 【授業内容】 名詞の生、複数形、冠詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (07) 【授業内容】 復習と進度の調整。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (08) 【授業内容】 復習。
【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。
- (09) 【授業内容】 人称代名詞。
【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(10)【授業内容】 話法の助動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(11)【授業内容】 前置詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(12)【授業内容】 複合動詞。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(13)【授業内容】 命令形。

【授業外学修】 教室で指示された教科書の該当頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(14)【授業内容】 復習と進度の調整。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、音声教材を繰り返し聞くこと。

(15)【授業内容】 総復習。小テスト（確認テスト）。

【授業外学修】 教科書のこれまでの全頁を熟読し、練習問題の解答を確認すること。

【授業外学修】

各回の授業外学修に要する時間は45分程度を目安とする。

【アクティブ・ラーニング】

* 第2回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている、①文法事項習得のための平易な練習問題、②読み、書く力をつけるための練習問題、それぞれに取り組んでもらいます。とくに②は宿題（レポート）にもなりますから、授業外学習時間をきちんと確保してください。①、②ともに、解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックをおこないます。

* 第15回は、「振り返り」として、小テスト（確認テスト）を実施します。終了後、manaba、教務情報ポータルシステムなどで解答例と解説を確認してください。

* 予習・復習のポイントは、以下のとおりです：①かならず声に出して読む。②かならず単語ノートをつくる。③名詞の性、複数形も単語ノートに書き込む。④すべての単語の品詞に留意する。⑤名詞句、副詞句、前置詞句、zu不定詞句など、語句（＝複数の単語からなる1つのかたまり）に留意する。⑥定動詞（＝人称変化形）の位置（＝正置・倒置・後置）をとらえる。⑦定動詞と不定詞を区別する。⑧本動詞と助動詞を区別する。⑨主文か、副文（従属文）か、たんなる挿入句にすぎないか、つねに意識する。⑩音声教材が、すりきれるまで！くり返し聞き、みずから進んで学ぶ姿勢を身につける。

* ラーニング・モモンズを利用するなどして、履修者同士でさらに話し合いながら復習することができれば申し分ありません。

履修上の注意/Notes

教科書、ノート、辞書はもちろん、宿題やレポートを忘れないこと。遅刻は15分までしか認めません。3回遅刻したら1回欠席扱い。6回休んだら単位は認定されません。不明な点は学務部教育支援課共通教育グループまで。

情報端末の活用

毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なドイツ語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なドイツ語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なドイツ語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している

C：初歩的なドイツ語をある程度修得し、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なドイツ語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト（確認テスト）60%、宿題（レポート）40%。評価の観点「到達目標」の①への接近度を「小テスト（確認テスト）」の結果および「宿題（レポート）」の記述から評価します。16週めの期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	新 トライ・ドイツ語 -オンライン授業対応-
著者名	市川宏子ほか
出版社	同学社
出版年	2022
ISBN	9784810207477
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	NHKテレビ 旅するドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	NHKラジオ まいにちドイツ語
著者名	
出版社	NHK出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	《最新版》ドイツの街角から ~素顔のドイツ その文化・歴史・社会~
著者名	高橋憲
出版社	郁文堂
出版年	2017
ISBN	9784261012651
教材費	1300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他。

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7261	ナンバリング	KB-FRE-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	フランス語入門				
担当教員（ローマ字表記）	ジャクタ ブルノ（JACTAT Bruno）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

フランス語入門

授業の概要/Course Overview

フランス語の学習経験ゼロの学生を対象に、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎をつくります。初歩的なフランス語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得します。

キーワード/Keyword(s)

初歩的なフランス語、コミュニケーション能力、発音の原則、動詞être、動詞avoir、動詞faire。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入（アルファベなど）
- 第2回：つづり字の読み方と数字1から10
- 第3回：名詞と冠詞の説明と簡単な練習
- 第4回：動詞êtreの説明と簡単な練習
- 第5回：「私は～です」の文型を使って職業を答える会話練習
- 第6回：形容詞の説明と簡単な練習
- 第7回：疑問文と否定文の説明と簡単な練習
- 第8回：「あなたはどこの国の人ですか？」という質問に答える会話練習
- 第9回：これまでのまとめ
- 第10回：動詞avoirの説明と簡単な練習
- 第11回：所有形容詞の説明と簡単な練習
- 第12回：「この人は誰？」という質問に答える会話練習
- 第13回：第一群規則動詞の説明と簡単な練習
- 第14回：動詞faireの説明と簡単な練習
- 第15回：総まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書あるいは電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べましょう。

どの訳語が正しいかわからないなど、理解できない箇所は赤ペンでチェックし、次の授業中に教員に質問するなどして、わからない部分を放置しないよう努めましょう。

(3)授業後は、復習として本文や例文を何度も繰り返し、声を出して文章を読んで、基本文を暗記するようにしましょう。

(4)また、書き取り（聞いただけでフランス語が書けるかどうか）の練習も積み重ねてください。特に動詞の活用は何度も練習して、必ず暗記してください（書いて、言えるように）。その他、基本表現を含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(5)さらにフランス語力をつけたい人は、茨城大学図書館に所蔵している各種参考書（後述）を読み、練習問題を行ってください。実用フランス語技能検定試験（5級）の問題集に挑戦してみるのもお勧めです。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回と、第10回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。これらはいずれも解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。

第5回と第8回と第12回で行われる会話練習とは「ロール・プレイング」です。

履修上の注意/Notes

ゼロから始める語学は特に「初め」が重要です。遅刻は、授業のスタートに失敗することですから、厳禁です。早めに教室に入るようにしましょう。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なフランス語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なフランス語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なフランス語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。

C：初歩的なフランス語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なフランス語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

学期中に数回行われる確認テスト（合計100%）で成績評価します。いわゆる期末試験（16週目に実施）は行いません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	バンド・デシネでフランス語。
著者名	神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	コレクションフランス語』1. 入門
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7262	ナンバリング	KB-FRE-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	フランス語入門				
担当教員（ローマ字表記）	木村 仁志（kimura Hitoshi）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

フランス語入門

授業の概要/Course Overview

フランス語の学習経験ゼロの学生を対象に、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎をつくります。初歩的なフランス語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得します。

キーワード/Keyword(s)

初歩的なフランス語、コミュニケーション能力、発音の原則、動詞être、動詞avoir、動詞faire。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入（アルファベなど）
 第2回：つづり字の読み方と数字1から10
 第3回：名詞と冠詞の説明と簡単な練習
 第4回：動詞êtreの説明と簡単な練習
 第5回：「私は～です」の文型を使って職業を答える会話練習
 第6回：形容詞の説明と簡単な練習
 第7回：疑問文と否定文の説明と簡単な練習
 第8回：「あなたはどこの国の人ですか？」という質問に答える会話練習
 第9回：これまでのまとめ
 第10回：動詞avoirの説明と簡単な練習
 第11回：所有形容詞の説明と簡単な練習
 第12回：「この人は誰？」という質問に答える会話練習
 第13回：第一群規則動詞の説明と簡単な練習
 第14回：動詞faireの説明と簡単な練習
 第15回：総まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書あるいは電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べましょう。

どの訳語が正しいかわからないなど、理解できない箇所は赤ペンでチェックし、次の授業中に教員に質問するなどして、わからない部分を放置しないよう努めましょう。

(3)授業後は、復習として本文や例文を何度も繰り返し、声を出して文章を読んで、基本文を暗記するようにしましょう。

(4)また、書き取り（聞いただけでフランス語が書けるかどうか）の練習も積み重ねてください。特に動詞の活用は何度も練習して、必ず暗記してください（書いて、言えるように）。その他、基本表現を含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(5)さらにフランス語力をつけたい人は、茨城大学図書館に所蔵している各種参考書（後述）を読み、練習問題を行ってください。実用フランス語技能検定試験（5級）の問題集に挑戦してみるのもお勧めです。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回と、第10回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。これらはいずれも解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。

第5回と第8回と第12回で行われる会話練習とは「ロール・プレイング」です。

履修上の注意/Notes

ゼロから始める語学は特に「初め」が重要です。遅刻は、授業のスタートに失敗することですから、厳禁です。早めに教室に入るようにしましょう。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なフランス語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なフランス語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なフランス語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。

C：初歩的なフランス語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なフランス語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

学期中に数回行われる確認テスト（合計100%）で成績評価します。いわゆる期末試験（16週目に実施）は行いません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	バンド・デシネでフランス語。
著者名	神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	コレクションフランス語』1. 入門
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7263	ナンバリング	KB-FRE-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	フランス語入門				
担当教員（ローマ字表記）	ジャクタ ブルノ（JACTAT Bruno）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

フランス語入門

授業の概要/Course Overview

フランス語の学習経験ゼロの学生を対象に、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎をつくります。初歩的なフランス語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得します。

キーワード/Keyword(s)

初歩的なフランス語、コミュニケーション能力、発音の原則、動詞être、動詞avoir、動詞faire。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入（アルファベなど）
- 第2回：つづり字の読み方と数字1から10
- 第3回：名詞と冠詞の説明と簡単な練習
- 第4回：動詞êtreの説明と簡単な練習
- 第5回：「私は～です」の文型を使って職業を答える会話練習
- 第6回：形容詞の説明と簡単な練習
- 第7回：疑問文と否定文の説明と簡単な練習
- 第8回：「あなたはどこの国の人ですか？」という質問に答える会話練習
- 第9回：これまでのまとめ
- 第10回：動詞avoirの説明と簡単な練習
- 第11回：所有形容詞の説明と簡単な練習
- 第12回：「この人は誰？」という質問に答える会話練習
- 第13回：第一群規則動詞の説明と簡単な練習
- 第14回：動詞faireの説明と簡単な練習
- 第15回：総まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書あるいは電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べましょう。

どの訳語が正しいかわからないなど、理解できない箇所は赤ペンでチェックし、次の授業中に教員に質問するなどして、わからない部分を放置しないよう努めましょう。

(3)授業後は、復習として本文や例文を何度も繰り返し、声を出して文章を読んで、基本文を暗記するようにしましょう。

(4)また、書き取り（聞いただけでフランス語が書けるかどうか）の練習も積み重ねてください。特に動詞の活用は何度も練習して、必ず暗記してください（書いて、言えるように）。その他、基本表現を含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(5)さらにフランス語力をつけたい人は、茨城大学図書館に所蔵している各種参考書（後述）を読み、練習問題を行ってください。実用フランス語技能検定試験（5級）の問題集に挑戦してみるのもお勧めです。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回と、第10回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。これらはいずれも解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。

第5回と第8回と第12回で行われる会話練習とは「ロール・プレイング」です。

履修上の注意/Notes

ゼロから始める語学は特に「初め」が重要です。遅刻は、授業のスタートに失敗することですから、厳禁です。早めに教室に入るようにしましょう。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なフランス語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なフランス語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なフランス語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。

C：初歩的なフランス語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なフランス語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

学期中に数回行われる確認テスト（合計100%）で成績評価します。いわゆる期末試験（16週目に実施）は行いません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	バンド・デシネでフランス語。
著者名	神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	コレクションフランス語』1. 入門
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7264	ナンバリング	KB-FRE-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	フランス語入門				
担当教員（ローマ字表記）	木村 仁志（kimura Hitoshi）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

フランス語入門

授業の概要/Course Overview

フランス語の学習経験ゼロの学生を対象に、フランス語によるコミュニケーション能力の基礎をつくります。初歩的なフランス語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得します。

キーワード/Keyword(s)

初歩的なフランス語、コミュニケーション能力、発音の原則、動詞être、動詞avoir、動詞faire。

到達目標/Learning Objectives

1. 外国語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
 2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
 3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。
- ディプロマ・ポリシー：①世界の俯瞰的理解、③課題解決能力・コミュニケーション力。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入（アルファベなど）
- 第2回：つづり字の読み方と数字1から10
- 第3回：名詞と冠詞の説明と簡単な練習
- 第4回：動詞êtreの説明と簡単な練習
- 第5回：「私は～です」の文型を使って職業を答える会話練習
- 第6回：形容詞の説明と簡単な練習
- 第7回：疑問文と否定文の説明と簡単な練習
- 第8回：「あなたはどこの国の人ですか？」という質問に答える会話練習
- 第9回：これまでのまとめ
- 第10回：動詞avoirの説明と簡単な練習
- 第11回：所有形容詞の説明と簡単な練習
- 第12回：「この人は誰？」という質問に答える会話練習
- 第13回：第一群規則動詞の説明と簡単な練習
- 第14回：動詞faireの説明と簡単な練習
- 第15回：総まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書あるいは電子辞書を必ず使い、分からない単語を調べましょう。

どの訳語が正しいかわからないなど、理解できない箇所は赤ペンでチェックし、次の授業中に教員に質問するなどして、わからない部分を放置しないよう努めましょう。

(3)授業後は、復習として本文や例文を何度も繰り返し、声を出して文章を読んで、基本文を暗記するようにしましょう。

(4)また、書き取り（聞いただけでフランス語が書けるかどうか）の練習も積み重ねてください。特に動詞の活用は何度も練習して、必ず暗記してください（書いて、言えるように）。その他、基本表現を含む短文をいくつかも暗記することも有効です。

(5)さらにフランス語力をつけたい人は、茨城大学図書館に所蔵している各種参考書（後述）を読み、練習問題を行ってください。実用フランス語技能検定試験（5級）の問題集に挑戦してみるのもお勧めです。

【アクティブ・ラーニング】

第2回から第8回と、第10回から第14回までは、毎回「双方向型問題演習」として、教科書各課に組み込まれている平易な練習問題や、教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。これらはいずれも解答例と解説を示し、双方向型問題演習としてのフィードバックを行います。

第5回と第8回と第12回で行われる会話練習とは「ロール・プレイング」です。

履修上の注意/Notes

ゼロから始める語学は特に「初め」が重要です。遅刻は、授業のスタートに失敗することですから、厳禁です。早めに教室に入るようにしましょう。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：初歩的なフランス語を十分に修得し、その構造を十分に理解している。

A：初歩的なフランス語を修得し、その構造を理解している。

B：初歩的なフランス語をおおむね修得し、その構造をおおむね理解している。

C：初歩的なフランス語について最低限の修得をしており、その構造をある程度理解している。

D：初歩的なフランス語を修得することができず、その構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

学期中に数回行われる確認テスト（合計100%）で成績評価します。いわゆる期末試験（16週目に実施）は行いません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	バンド・デシネでフランス語。
著者名	神田大吾・藤原貞朗・猪俣紀子
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	コレクションフランス語』1. 入門
著者名	蘇我佑典ほか
出版社	白水社
出版年	
ISBN	
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7361	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	高 建華				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

<p>中国語入門から準初級のクラス。 木曜に行う。 中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。 ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。</p>
--

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<ol style="list-style-type: none"> シラバスを用いたガイダンス 発音1の学修 発音2の学修 発音3の学修 発音4の学修 レベル確認テストI（発音編） 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕 第2課 あなたは中国人ですか？ 第3課 どこに行くの？ 第4課 授業はあるの？ 第5課 良い夏休みを！ 第6課 夏休みはどうでしたか？ 第7課 どんな趣味をお持ちで？ 第8課 何冊の辞書を持っていますか？ レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施） <p>【授業外学修】</p> <p>(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。 1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。 まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単</p>
--

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI : 20%、II : 80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7362	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	北島 大悟				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

<p>中国語入門から準初級のクラス。 木曜に行う。 中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。 ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。</p>
--

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<ol style="list-style-type: none"> シラバスを用いたガイダンス 発音1の学修 発音2の学修 発音3の学修 発音4の学修 レベル確認テストI（発音編） 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕 第2課 あなたは中国人ですか？ 第3課 どこに行くの？ 第4課 授業はあるの？ 第5課 良い夏休みを！ 第6課 夏休みはどうでしたか？ 第7課 どんな趣味をお持ちで？ 第8課 何冊の辞書を持っていますか？ レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施） <p>【授業外学修】</p> <p>(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。 1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。 まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単</p>
--

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7363	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	金 成姫（Kin Seiki）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行く。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音1の学修
3. 発音2の学修
4. 発音3の学修
5. 発音4の学修
6. レベル確認テストI（発音編）
7. 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第2課 あなたは中国人ですか？
9. 第3課 どこに行くの？
10. 第4課 授業はあるの？
11. 第5課 良い夏休みを！
12. 第6課 夏休みはどうでしたか？
13. 第7課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第8課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7364	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	山元 貴尚（Yamamoto Takahisa）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

<p>中国語入門から準初級のクラス。 木曜に行う。 中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。 ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。</p>
--

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<ol style="list-style-type: none"> シラバスを用いたガイダンス 発音1の学修 発音2の学修 発音3の学修 発音4の学修 レベル確認テストI（発音編） 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕 第2課 あなたは中国人ですか？ 第3課 どこに行くの？ 第4課 授業はあるの？ 第5課 良い夏休みを！ 第6課 夏休みはどうでしたか？ 第7課 どんな趣味をお持ちで？ 第8課 何冊の辞書を持っていますか？ レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施） <p>【授業外学修】</p> <p>(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。 1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。 まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単</p>
--

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7365	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	宮古 文尋（Miyako Fumihiro）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行う。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音 1 の学修
3. 発音 2 の学修
4. 発音 3 の学修
5. 発音 4 の学修
6. レベル確認テスト I（発音編）
7. 第 1 課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第 2 課 あなたは中国人ですか？
9. 第 3 課 どこに行くの？
10. 第 4 課 授業はあるの？
11. 第 5 課 良い夏休みを！
12. 第 6 課 夏休みはどうでしたか？
13. 第 7 課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第 8 課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テスト II（第 1 課から第 8 課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7366	ナンバリング	KB-CHI-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	井澤 耕一（IZAWA KOICHI）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行う。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音1の学修
3. 発音2の学修
4. 発音3の学修
5. 発音4の学修
6. レベル確認テストI（発音編）
7. 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第2課 あなたは中国人ですか？
9. 第3課 どこに行くの？
10. 第4課 授業はあるの？
11. 第5課 良い夏休みを！
12. 第6課 夏休みはどうでしたか？
13. 第7課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第8課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7367	ナンバリング	KB-CHI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	李立冰（L i）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行う。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音 1 の学修
3. 発音 2 の学修
4. 発音 3 の学修
5. 発音 4 の学修
6. レベル確認テスト I（発音編）
7. 第 1 課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第 2 課 あなたは中国人ですか？
9. 第 3 課 どこに行くの？
10. 第 4 課 授業はあるの？
11. 第 5 課 良い夏休みを！
12. 第 6 課 夏休みはどうでしたか？
13. 第 7 課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第 8 課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テスト II（第 1 課から第 8 課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7368	ナンバリング	KB-CHI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	王 克西				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行う。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音1の学修
3. 発音2の学修
4. 発音3の学修
5. 発音4の学修
6. レベル確認テストI（発音編）
7. 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第2課 あなたは中国人ですか？
9. 第3課 どこに行くの？
10. 第4課 授業はあるの？
11. 第5課 良い夏休みを！
12. 第6課 夏休みはどうでしたか？
13. 第7課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第8課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7369	ナンバリング	KB-CHI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	高 建華				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行う。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音 1 の学修
3. 発音 2 の学修
4. 発音 3 の学修
5. 発音 4 の学修
6. レベル確認テスト I（発音編）
7. 第 1 課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第 2 課 あなたは中国人ですか？
9. 第 3 課 どこに行くの？
10. 第 4 課 授業はあるの？
11. 第 5 課 良い夏休みを！
12. 第 6 課 夏休みはどうでしたか？
13. 第 7 課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第 8 課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テスト II（第 1 課から第 8 課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI : 20%、II : 80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7370	ナンバリング	KB-CHI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	北島 大悟				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

<p>中国語入門から準初級のクラス。 木曜に行う。 中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。 ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。</p>
--

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<ol style="list-style-type: none"> シラバスを用いたガイダンス 発音1の学修 発音2の学修 発音3の学修 発音4の学修 レベル確認テストI（発音編） 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕 第2課 あなたは中国人ですか？ 第3課 どこに行くの？ 第4課 授業はあるの？ 第5課 良い夏休みを！ 第6課 夏休みはどうでしたか？ 第7課 どんな趣味をお持ちで？ 第8課 何冊の辞書を持っていますか？ レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施） <p>【授業外学修】</p> <p>(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。 1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。 まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単</p>
--

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7371	ナンバリング	KB-CHI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	金 成姫（Kin Seiki）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行く。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音 1 の学修
3. 発音 2 の学修
4. 発音 3 の学修
5. 発音 4 の学修
6. レベル確認テスト I（発音編）
7. 第 1 課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第 2 課 あなたは中国人ですか？
9. 第 3 課 どこに行くの？
10. 第 4 課 授業はあるの？
11. 第 5 課 良い夏休みを！
12. 第 6 課 夏休みはどうでしたか？
13. 第 7 課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第 8 課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テスト II（第 1 課から第 8 課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI : 20%、II : 80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7372	ナンバリング	KB-CHI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	山元 貴尚（Yamamoto Takahisa）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

中国語入門から準初級のクラス。

木曜に行う。

中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。

ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 発音1の学修
3. 発音2の学修
4. 発音3の学修
5. 発音4の学修
6. レベル確認テストI（発音編）
7. 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕
8. 第2課 あなたは中国人ですか？
9. 第3課 どこに行くの？
10. 第4課 授業はあるの？
11. 第5課 良い夏休みを！
12. 第6課 夏休みはどうでしたか？
13. 第7課 どんな趣味をお持ちで？
14. 第8課 何冊の辞書を持っていますか？
15. レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施）

【授業外学修】

(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。

1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。

まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7373	ナンバリング	KB-CHI-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	中国語入門				
担当教員（ローマ字表記）	宮古 文尋（Miyako Fumihiro）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

中国語入門

授業の概要/Course Overview

<p>中国語入門から準初級のクラス。 木曜に行う。 中国語の基礎となる発音および初級文法を修得する。授業中は、単語や文法の学習、会話練習を行う。 ことばの背景にある中国の文化や社会事情についても適宜紹介し、関心を深めながら、実践的な語学力を身につける。</p>
--

キーワード/Keyword(s)

中国語、初級会話、基礎文法、コミュニケーション能力、中国文化、中国事情

到達目標/Learning Objectives

中国語の基礎的発音の修得、初級文法の理解を目標とし、さらに初級レベルの会話を修得できる。
--

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<ol style="list-style-type: none"> シラバスを用いたガイダンス 発音1の学修 発音2の学修 発音3の学修 発音4の学修 レベル確認テストI（発音編） 第1課 お名前は？〔課ごとに、文法解説→会話文→（巻末の練習問題）の順序で学ぶ〕 第2課 あなたは中国人ですか？ 第3課 どこに行くの？ 第4課 授業はあるの？ 第5課 良い夏休みを！ 第6課 夏休みはどうでしたか？ 第7課 どんな趣味をお持ちで？ 第8課 何冊の辞書を持っていますか？ レベル確認テストII（第1課から第8課までを範囲とし、ヒアリングと文法の総合テストを実施） <p>【授業外学修】</p> <p>(1)語学の習得には予習・復習が不可欠です。 1回90分の授業の理解には120分の自宅学習が必要だといわれています。 まずは、指示された宿題を予習として必ず行ってください。予習には辞書、電子辞書を必ず使い、分からない単</p>
--

語を調べてください。理解できない箇所は赤ペンでチェックし、授業中に教員に質問するなどして、分からない部分を放置しないよう努めましょう。

授業後は、復習として、教科書に付属しているCDを利用し、何度も繰り返し聞いて、聞き取りと書き取りの練習を積み重ねてください。自宅学習では、必ず、大きく口を開き、声を出して文章を読みましょう。基本表現やイディオムを含む短文をいくつも暗記することも有効です。

(2)中国語の力をつけたい人は、中国語検定試験（4級・準4級）（最新の問題集は茨城大学図書館に所蔵）に挑戦してみるのもお勧めです。

(3)1日に1度は必ず中国語に触れるという日々の習慣を身につけることも重要です。日頃から中国語の情報をラジオ、テレビ、インターネットなどで見たり聞いたりして、中国および中国語に慣れ親しんでおきましょう。

【アクティブ・ラーニング】

(1)第2回～5回、第7回～14回の内容を、統一テキストを使用して、教員により講義する。それを踏まえて、教授された事を実践できるよう、受講者は口頭発表を毎回行う。

(2)第6回、第15回については、到達度を測るテストを実施する。それにより学期中に教員が教授した事が受講者に定着したのかを明らかにする。

履修上の注意/Notes

- ・授業1回につき1課のペースで進める。上記のレベル確認テストIは各教員ごとに、IIは統一の記述式テストを実施する。
- ・遅刻、欠席は厳禁。不明な点は、まず担当教員に直接尋ねること。

情報端末の活用

- ・オンライン授業の場合は、PCなどを必ず準備すること。
- ・その際、チームコードは担当教員よりmanabaまたは教務情報ポータルで事前に通知します。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+	90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

レベル確認テストI：20%、II：80%

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中国語の世界：大学一年生の入門中国語
著者名	劉国彬著
出版社	金星堂
出版年	2017
ISBN	9784764707078
教材費	1900

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	中日辞典 第3版
著者名	北京・商務印書館, 小学館 共同編集
出版社	小学館
出版年	2016
ISBN	9784095156040
教材費	7500

参考書2

書名	中検準4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	9784863984127
教材費	1700

参考書3

書名	中検4級試験問題：解答と解説
著者名	日本中国語検定協会 編
出版社	白帝社
出版年	2021
ISBN	4863984138
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7461	ナンバリング	KB-KOR-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語入門				
担当教員（ローマ字表記）	LI GUIXIANG (Guixiang Li)				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

朝鮮語入門

授業の概要/Course Overview

韓国語・朝鮮語を初めて学習する学生が対象です。まず、韓国語・朝鮮語を表記するための文字であるハングルと発音をしっかりと学び、その後、語彙や文法を段階的に習得します。授業では、韓国語・朝鮮語の音に親しむように声を出して反復練習します。次に、学習した内容を基にあいさつや簡単な会話を練習し、実際に使える表現力を身につけられるよう実践的講義を行います。授業進度により、必要な場合は実際の発音や朝鮮半島の事情にも触れられるような映像や音楽などを視聴覚教材として取り入れることもあります。

キーワード/Keyword(s)

韓国語・朝鮮語, ハングル, 文字と発音, 基礎的な文法と会話, 実践力, 文章読解, 朝鮮半島の文化

到達目標/Learning Objectives

1. 韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得することができる。
2. 韓国語・朝鮮語の基礎的な文法を修得することができる。
3. 基礎的な会話や文章読解や作文も修得することができる。
4. 朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス及び朝鮮語の特徴やハングルの仕組みなどの紹介, 初対面の挨拶を学ぶ
2. 単母音・重母音の学習: 発音及び書く練習, 授業用語の学習
3. 子音(1)の学習: 発音及び書く練習, 基本的なあいさつの練習
4. 子音(2)激音と濃音, 重母音(2)の学習: 発音及び書く練習
5. 子音(3)パッチムの学習: 発音及び書く練習
6. 発音規則の学習: 文字の復習と発音練習・名前のハングル表記・正しく読む練習
7. 疑問形・否定文の学習: 「～は～です(か)」「～は～ではありません(か)」, 会話の練習(自己紹介)
8. 確認テスト I
9. 存在文の学習: 「～は～にあります(か)/ありません(か)」, 会話の練習(学校内のことを話す)
10. 用言文(ハムニダ体)・否定表現の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 「～くありません(か)、ません(か)」, 会話の練習(学校や通学について話す)
11. 用言文(ヘヨ体)の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 会話の練習(食べ物のことを話す)
12. 数詞の学習: 「何番のバスに乗りますか」「何時に会いましょうか」, 会話の練習(誕生日や年齢をたずねる)
13. 過去形・不可能表現の学習: 「～ませんでした」, 会話の練習(休み中の出来事についてたずねる)
14. 確認テスト II
15. 総まとめ

【授業外学修】

- (1)第2回から第7回までと、第9回から第13回まで毎回、読み・書き・聞く力をつけるための小テストや簡単な課題、リアクションペーパーなどによる「双方向型問題演習」を行う。これにより、授業後の基礎的な単語や挨拶や簡単な文章を繰り返し練習し覚える。
- (2)第8回と第14回では、「振り返り」として確認テストを実施します。授業時間外によく復習し、授業内容を十分に理解しておくこと。
- (3)朝鮮語の文法は日本語と近く、漢字語（漢字由来の語彙）では日本語の「音(おん)」と似ているものも多いため、とても学びやすい言語といえる。文法体系や音の法則性を理解し、両言語の対応関係に気づくよう授業中に聞いた説明を思い出しながら教科書を復習しておくこと。
- (4)WEB動画のタグ、新聞のWEB版などを利用し、文字を理解し単語を調べることで少しずつ内容を理解することができる。気になるK-popや映画・ドラマなどからも知っている単語やフレーズを確認することにより朝鮮語に接する機会を増やすことで自然に語学力が身につく。こうした方法で意識的な独習することを心掛ける。

【アクティブラーニング】

- * 進度に従いディスカッションやグループワークなどによる実践力を養うためのアクティブラーニングを行う。
- * 毎回の小テストや課題（リアクションペーパーなども含む）、2回の確認テストは翌週の授業で解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。毎回の課題などは提出日を厳守（やむを得ない事由を除き後日提出は認めません）

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造を十分に理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト（2回）：50%
小テスト・課題など（合計）：50%
16回目の定期試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マル韓国語
著者名	韓必南, 全恵子[著]
出版社	朝日出版社
出版年	2020
ISBN	9784255556703
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7462	ナンバリング	KB-KOR-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語入門				
担当教員（ローマ字表記）	CHUNG Yookja（Yookja Chung）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

朝鮮語入門

授業の概要/Course Overview

韓国語・朝鮮語を初めて学習する学生が対象です。まず、韓国語・朝鮮語を表記するための文字であるハングルと発音をしっかりと学び、その後、語彙や文法を段階的に習得します。授業では、韓国語・朝鮮語の音に親しむように声を出して反復練習します。次に、学習した内容を基にあいさつや簡単な会話を練習し、実際に使える表現力を身につけられるよう実践的講義を行います。授業進度により、必要な場合は実際の発音や朝鮮半島の事情にも触れられるような映像や音楽などを視聴覚教材として取り入れることもあります。

キーワード/Keyword(s)

韓国語・朝鮮語, ハングル, 文字と発音, 基礎的な文法と会話, 実践力, 文章読解, 朝鮮半島の文化

到達目標/Learning Objectives

1. 韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得することができる。
2. 韓国語・朝鮮語の基礎的な文法を修得することができる。
3. 基礎的な会話や文章読解や作文も修得することができる。
4. 朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス及び朝鮮語の特徴やハングルの仕組みなどの紹介, 初対面の挨拶を学ぶ
2. 単母音・重母音の学習: 発音及び書く練習, 授業用語の学習
3. 子音(1)の学習: 発音及び書く練習, 基本的なあいさつの練習
4. 子音(2)激音と濃音, 重母音(2)の学習: 発音及び書く練習
5. 子音(3)パッチムの学習: 発音及び書く練習
6. 発音規則の学習: 文字の復習と発音練習・名前のハングル表記・正しく読む練習
7. 疑問形・否定文の学習: 「～は～ですか」「～は～ではありません(か)」, 会話の練習(自己紹介)
8. 確認テスト I
9. 存在文の学習: 「～は～にあります(か)/ありません(か)」, 会話の練習(学校内のことを話す)
10. 用言文(ハムニダ体)・否定表現の学習: 「～ですか/ます(か)」, 「～くありません(か)、ません(か)」, 会話の練習(学校や通学について話す)
11. 用言文(ヘヨ体)の学習: 「～ですか/ます(か)」, 会話の練習(食べ物のことを話す)
12. 数詞の学習: 「何番のバスに乗りますか」「何時に会いましょうか」, 会話の練習(誕生日や年齢をたずねる)
13. 過去形・不可能表現の学習: 「～ませんでした」, 会話の練習(休み中の出来事についてたずねる)
14. 確認テスト II
15. 総まとめ

【授業外学修】

- (1)第2回から第7回までと、第9回から第13回まで毎回、読み・書き・聞く力をつけるための小テストや簡単な課題、リアクションペーパーなどによる「双方向型問題演習」を行う。これにより、授業後の基礎的な単語や挨拶や簡単な文章を繰り返し練習し覚える。
- (2)第8回と第14回では、「振り返り」として確認テストを実施します。授業時間外によく復習し、授業内容を十分に理解しておくこと。
- (3)朝鮮語の文法は日本語と近く、漢字語（漢字由来の語彙）では日本語の「音(おん)」と似ているものも多いため、とても学びやすい言語といえる。文法体系や音の法則性を理解し、両言語の対応関係に気づくよう授業中に聞いた説明を思い出しながら教科書を復習しておくこと。
- (4)WEB動画のタグ、新聞のWEB版などを利用し、文字を理解し単語を調べることで少しずつ内容を理解することができる。気になるK-popや映画・ドラマなどからも知っている単語やフレーズを確認することにより朝鮮語に接する機会を増やすことで自然に語学力が身につく。こうした方法で意識的な独習することを心掛ける。

【アクティブラーニング】

- * 進度に従いディスカッションやグループワークなどによる実践力を養うためのアクティブラーニングを行う。
- * 毎回の小テストや課題（リアクションペーパーなども含む）、2回の確認テストは翌週の授業で解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。毎回の課題などは提出日を厳守（やむを得ない事由を除き後日提出は認めません）

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造を十分に理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト（2回）：50%
小テスト・課題など（合計）：50%
16回目の定期試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マル韓国語
著者名	韓必南, 全恵子[著]
出版社	朝日出版社
出版年	2020
ISBN	9784255556703
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7463	ナンバリング	KB-KOR-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語入門				
担当教員（ローマ字表記）	XU JIN (Jin Xu)				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

朝鮮語入門

授業の概要/Course Overview

韓国語・朝鮮語を初めて学習する学生が対象です。まず、韓国語・朝鮮語を表記するための文字であるハングルと発音をしっかりと学び、その後、語彙や文法を段階的に習得します。授業では、韓国語・朝鮮語の音に親しむように声を出して反復練習します。次に、学習した内容を基にあいさつや簡単な会話を練習し、実際に使える表現力を身につけられるよう実践的講義を行います。授業進度により、必要な場合は実際の発音や朝鮮半島の事情にも触れられるような映像や音楽などを視聴覚教材として取り入れることもあります。

キーワード/Keyword(s)

韓国語・朝鮮語, ハングル, 文字と発音, 基礎的な文法と会話, 実践力, 文章読解, 朝鮮半島の文化

到達目標/Learning Objectives

1. 韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得することができる。
2. 韓国語・朝鮮語の基礎的な文法を修得することができる。
3. 基礎的な会話や文章読解や作文も修得することができる。
4. 朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス及び朝鮮語の特徴やハングルの仕組みなどの紹介, 初対面の挨拶を学ぶ
2. 単母音・重母音の学習: 発音及び書く練習, 授業用語の学習
3. 子音(1)の学習: 発音及び書く練習, 基本的なあいさつの練習
4. 子音(2)激音と濃音, 重母音(2)の学習: 発音及び書く練習
5. 子音(3)パッチムの学習: 発音及び書く練習
6. 発音規則の学習: 文字の復習と発音練習・名前のハングル表記・正しく読む練習
7. 疑問形・否定文の学習: 「～は～です(か)」「～は～ではありません(か)」, 会話の練習(自己紹介)
8. 確認テスト I
9. 存在文の学習: 「～は～にあります(か)/ありません(か)」, 会話の練習(学校内のことを話す)
10. 用言文(ハムニダ体)・否定表現の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 「～くありません(か)、ません(か)」, 会話の練習(学校や通学について話す)
11. 用言文(ヘヨ体)の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 会話の練習(食べ物のことを話す)
12. 数詞の学習: 「何番のバスに乗りますか」「何時に会いましょうか」, 会話の練習(誕生日や年齢をたずねる)
13. 過去形・不可能表現の学習: 「～ませんでした」, 会話の練習(休み中の出来事についてたずねる)
14. 確認テスト II
15. 総まとめ

【授業外学修】

- (1)第2回から第7回までと、第9回から第13回まで毎回、読み・書き・聞く力をつけるための小テストや簡単な課題、リアクションペーパーなどによる「双方向型問題演習」を行う。これにより、授業後の基礎的な単語や挨拶や簡単な文章を繰り返し練習し覚える。
- (2)第8回と第14回では、「振り返り」として確認テストを実施します。授業時間外によく復習し、授業内容を十分に理解しておくこと。
- (3)朝鮮語の文法は日本語と近く、漢字語（漢字由来の語彙）では日本語の「音(おん)」と似ているものも多いため、とても学びやすい言語といえる。文法体系や音の法則性を理解し、両言語の対応関係に気づくよう授業中に聞いた説明を思い出しながら教科書を復習しておくこと。
- (4)WEB動画のタグ、新聞のWEB版などを利用し、文字を理解し単語を調べることで少しずつ内容を理解することができる。気になるK-popや映画・ドラマなどからも知っている単語やフレーズを確認することにより朝鮮語に接する機会を増やすことで自然に語学力が身につく。こうした方法で意識的な独習することを心掛ける。

【アクティブラーニング】

- * 進度に従いディスカッションやグループワークなどによる実践力を養うためのアクティブラーニングを行う。
- * 毎回の小テストや課題（リアクションペーパーなども含む）、2回の確認テストは翌週の授業で解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。毎回の課題などは提出日を厳守（やむを得ない事由を除き後日提出は認めません）

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造を十分に理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト（2回）：50%
小テスト・課題など（合計）：50%
16回目の定期試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マル韓国語
著者名	韓必南, 全恵子[著]
出版社	朝日出版社
出版年	2020
ISBN	9784255556703
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7464	ナンバリング	KB-KOR-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語入門				
担当教員（ローマ字表記）	LI GUIXIANG (Guixiang Li)				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

朝鮮語入門

授業の概要/Course Overview

韓国語・朝鮮語を初めて学習する学生が対象です。まず、韓国語・朝鮮語を表記するための文字であるハングルと発音をしっかりと学び、その後、語彙や文法を段階的に習得します。授業では、韓国語・朝鮮語の音に親しむように声を出して反復練習します。次に、学習した内容を基にあいさつや簡単な会話を練習し、実際に使える表現力を身につけられるよう実践的講義を行います。授業進度により、必要な場合は実際の発音や朝鮮半島の事情にも触れられるような映像や音楽などを視聴覚教材として取り入れることもあります。

キーワード/Keyword(s)

韓国語・朝鮮語, ハングル, 文字と発音, 基礎的な文法と会話, 実践力, 文章読解, 朝鮮半島の文化

到達目標/Learning Objectives

1. 韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得することができる。
2. 韓国語・朝鮮語の基礎的な文法を修得することができる。
3. 基礎的な会話や文章読解や作文も修得することができる。
4. 朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス及び朝鮮語の特徴やハングルの仕組みなどの紹介, 初対面の挨拶を学ぶ
2. 単母音・重母音の学習: 発音及び書く練習, 授業用語の学習
3. 子音(1)の学習: 発音及び書く練習, 基本的なあいさつの練習
4. 子音(2)激音と濃音, 重母音(2)の学習: 発音及び書く練習
5. 子音(3)パッチムの学習: 発音及び書く練習
6. 発音規則の学習: 文字の復習と発音練習・名前のハングル表記・正しく読む練習
7. 疑問形・否定文の学習: 「～は～です(か)」「～は～ではありません(か)」, 会話の練習(自己紹介)
8. 確認テスト I
9. 存在文の学習: 「～は～にあります(か)/ありません(か)」, 会話の練習(学校内のことを話す)
10. 用言文(ハムニダ体)・否定表現の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 「～くありません(か)、ません(か)」, 会話の練習(学校や通学について話す)
11. 用言文(ヘヨ体)の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 会話の練習(食べ物のことを話す)
12. 数詞の学習: 「何番のバスに乗りますか」「何時に会いましょうか」, 会話の練習(誕生日や年齢をたずねる)
13. 過去形・不可能表現の学習: 「～ませんでした」, 会話の練習(休み中の出来事についてたずねる)
14. 確認テスト II
15. 総まとめ

【授業外学修】

- (1)第2回から第7回までと、第9回から第13回まで毎回、読み・書き・聞く力をつけるための小テストや簡単な課題、リアクションペーパーなどによる「双方向型問題演習」を行う。これにより、授業後の基礎的な単語や挨拶や簡単な文章を繰り返し練習し覚える。
- (2)第8回と第14回では、「振り返り」として確認テストを実施します。授業時間外によく復習し、授業内容を十分に理解しておくこと。
- (3)朝鮮語の文法は日本語と近く、漢字語（漢字由来の語彙）では日本語の「音(おん)」と似ているものも多いため、とても学びやすい言語といえる。文法体系や音の法則性を理解し、両言語の対応関係に気づくよう授業中に聞いた説明を思い出しながら教科書を復習しておくこと。
- (4)WEB動画のタグ、新聞のWEB版などを利用し、文字を理解し単語を調べることで少しずつ内容を理解することができる。気になるK-popや映画・ドラマなどからも知っている単語やフレーズを確認することにより朝鮮語に接する機会を増やすことで自然に語学力が身につく。こうした方法で意識的な独習することを心掛ける。

【アクティブラーニング】

- * 進度に従いディスカッションやグループワークなどによる実践力を養うためのアクティブラーニングを行う。
- * 毎回の小テストや課題（リアクションペーパーなども含む）、2回の確認テストは翌週の授業で解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。毎回の課題などは提出日を厳守（やむを得ない事由を除き後日提出は認めません）

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造を十分に理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト（2回）：50%
小テスト・課題など（合計）：50%
16回目の定期試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マル韓国語
著者名	韓必南, 全恵子[著]
出版社	朝日出版社
出版年	2020
ISBN	9784255556703
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7465	ナンバリング	KB-KOR-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語入門				
担当教員（ローマ字表記）	CHUNG Yookja (Yookja Chung)				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

朝鮮語入門

授業の概要/Course Overview

韓国語・朝鮮語を初めて学習する学生が対象です。まず、韓国語・朝鮮語を表記するための文字であるハングルと発音をしっかりと学び、その後、語彙や文法を段階的に習得します。授業では、韓国語・朝鮮語の音に親しむように声を出して反復練習します。次に、学習した内容を基にあいさつや簡単な会話を練習し、実際に使える表現力を身につけられるよう実践的講義を行います。授業進度により、必要な場合は実際の発音や朝鮮半島の事情にも触れられるような映像や音楽などを視聴覚教材として取り入れることもあります。

キーワード/Keyword(s)

韓国語・朝鮮語, ハングル, 文字と発音, 基礎的な文法と会話, 実践力, 文章読解, 朝鮮半島の文化

到達目標/Learning Objectives

1. 韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得することができる。
2. 韓国語・朝鮮語の基礎的な文法を修得することができる。
3. 基礎的な会話や文章読解や作文も修得することができる。
4. 朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス及び朝鮮語の特徴やハングルの仕組みなどの紹介, 初対面の挨拶を学ぶ
2. 単母音・重母音の学習: 発音及び書く練習, 授業用語の学習
3. 子音(1)の学習: 発音及び書く練習, 基本的なあいさつの練習
4. 子音(2)激音と濃音, 重母音(2)の学習: 発音及び書く練習
5. 子音(3)パッチムの学習: 発音及び書く練習
6. 発音規則の学習: 文字の復習と発音練習・名前のハングル表記・正しく読む練習
7. 疑問形・否定文の学習: 「～は～です(か)」「～は～ではありません(か)」, 会話の練習(自己紹介)
8. 確認テスト I
9. 存在文の学習: 「～は～にあります(か)/ありません(か)」, 会話の練習(学校内のことを話す)
10. 用言文(ハムニダ体)・否定表現の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 「～くありません(か)、ません(か)」, 会話の練習(学校や通学について話す)
11. 用言文(ヘヨ体)の学習: 「～です(か)、ます(か)」, 会話の練習(食べ物のことを話す)
12. 数詞の学習: 「何番のバスに乗りますか」「何時に会いましょうか」, 会話の練習(誕生日や年齢をたずねる)
13. 過去形・不可能表現の学習: 「～ませんでした」, 会話の練習(休み中の出来事についてたずねる)
14. 確認テスト II
15. 総まとめ

【授業外学修】

- (1)第2回から第7回までと、第9回から第13回まで毎回、読み・書き・聞く力をつけるための小テストや簡単な課題、リアクションペーパーなどによる「双方向型問題演習」を行う。これにより、授業後の基礎的な単語や挨拶や簡単な文章を繰り返し練習し覚える。
- (2)第8回と第14回では、「振り返り」として確認テストを実施します。授業時間外によく復習し、授業内容を十分に理解しておくこと。
- (3)朝鮮語の文法は日本語と近く、漢字語（漢字由来の語彙）では日本語の「音(おん)」と似ているものも多いため、とても学びやすい言語といえる。文法体系や音の法則性を理解し、両言語の対応関係に気づくよう授業中に聞いた説明を思い出しながら教科書を復習しておくこと。
- (4)WEB動画のタグ、新聞のWEB版などを利用し、文字を理解し単語を調べることで少しずつ内容を理解することができる。気になるK-popや映画・ドラマなどからも知っている単語やフレーズを確認することにより朝鮮語に接する機会を増やすことで自然に語学力が身につく。こうした方法で意識的な独習することを心掛ける。

【アクティブラーニング】

- * 進度に従いディスカッションやグループワークなどによる実践力を養うためのアクティブラーニングを行う。
- * 毎回の小テストや課題（リアクションペーパーなども含む）、2回の確認テストは翌週の授業で解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。毎回の課題などは提出日を厳守（やむを得ない事由を除き後日提出は認めません）

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造を十分に理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト（2回）：50%
小テスト・課題など（合計）：50%
16回目の定期試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マル韓国語
著者名	韓必南, 全恵子[著]
出版社	朝日出版社
出版年	2020
ISBN	9784255556703
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7466	ナンバリング	KB-KOR-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	朝鮮語入門				
担当教員（ローマ字表記）	XU JIN (Jin Xu)				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

朝鮮語入門

授業の概要/Course Overview

韓国語・朝鮮語を初めて学習する学生が対象です。まず、韓国語・朝鮮語を表記するための文字であるハングルと発音をしっかりと学び、その後、語彙や文法を段階的に習得します。授業では、韓国語・朝鮮語の音に親しむように声を出して反復練習します。次に、学習した内容を基にあいさつや簡単な会話を練習し、実際に使える表現力を身につけられるよう実践的講義を行います。授業進度により、必要な場合は実際の発音や朝鮮半島の事情にも触れられるような映像や音楽などを視聴覚教材として取り入れることもあります。

キーワード/Keyword(s)

韓国語・朝鮮語, ハングル, 文字と発音, 基礎的な文法と会話, 実践力, 文章読解, 朝鮮半島の文化

到達目標/Learning Objectives

1. 韓国語・朝鮮語の文字と発音を修得することができる。
2. 韓国語・朝鮮語の基礎的な文法を修得することができる。
3. 基礎的な会話や文章読解や作文も修得することができる。
4. 朝鮮半島の文化に対する理解を深めることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス及び朝鮮語の特徴やハングルの仕組みなどの紹介, 初対面の挨拶を学ぶ
2. 単母音・重母音の学習: 発音及び書く練習, 授業用語の学習
3. 子音(1)の学習: 発音及び書く練習, 基本的なあいさつの練習
4. 子音(2)激音と濃音, 重母音(2)の学習: 発音及び書く練習
5. 子音(3)パッチムの学習: 発音及び書く練習
6. 発音規則の学習: 文字の復習と発音練習・名前のハングル表記・正しく読む練習
7. 疑問形・否定文の学習: 「～は～ですか」「～は～ではありません(か)」, 会話の練習(自己紹介)
8. 確認テストI
9. 存在文の学習: 「～は～にあります(か)/ありません(か)」, 会話の練習(学校内のことを話す)
10. 用言文(ハムニダ体)・否定表現の学習: 「～ですか/ます(か)」, 「～くありません(か)、ません(か)」, 会話の練習(学校や通学について話す)
11. 用言文(ヘヨ体)の学習: 「～ですか/ます(か)」, 会話の練習(食べ物のことを話す)
12. 数詞の学習: 「何番のバスに乗りますか」「何時に会いましょうか」, 会話の練習(誕生日や年齢をたずねる)
13. 過去形・不可能表現の学習: 「～ませんでした」, 会話の練習(休み中の出来事についてたずねる)
14. 確認テストII
15. 総まとめ

【授業外学修】

- (1)第2回から第7回までと、第9回から第13回まで毎回、読み・書き・聞く力をつけるための小テストや簡単な課題、リアクションペーパーなどによる「双方向型問題演習」を行う。これにより、授業後の基礎的な単語や挨拶や簡単な文章を繰り返し練習し覚える。
- (2)第8回と第14回では、「振り返り」として確認テストを実施します。授業時間外によく復習し、授業内容を十分に理解しておくこと。
- (3)朝鮮語の文法は日本語と近く、漢字語（漢字由来の語彙）では日本語の「音(おん)」と似ているものも多いため、とても学びやすい言語といえる。文法体系や音の法則性を理解し、両言語の対応関係に気づくよう授業中に聞いた説明を思い出しながら教科書を復習しておくこと。
- (4)WEB動画のタグ、新聞のWEB版などを利用し、文字を理解し単語を調べることで少しずつ内容を理解することができる。気になるK-popや映画・ドラマなどからも知っている単語やフレーズを確認することにより朝鮮語に接する機会を増やすことで自然に語学力が身につく。こうした方法で意識的な独習することを心掛ける。

【アクティブラーニング】

- * 進度に従いディスカッションやグループワークなどによる実践力を養うためのアクティブラーニングを行う。
- * 毎回の小テストや課題（リアクションペーパーなども含む）、2回の確認テストは翌週の授業で解説を行い、双方向型問題演習としてのフィードバックを行う。

履修上の注意/Notes

遅刻は原則として認めません。毎回の課題などは提出日を厳守（やむを得ない事由を除き後日提出は認めません）

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造を十分に理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト（2回）：50%
小テスト・課題など（合計）：50%
16回目の定期試験はありません。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	マル韓国語
著者名	韓必南, 全恵子[著]
出版社	朝日出版社
出版年	2020
ISBN	9784255556703
教材費	2420

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7561	ナンバリング	KB-SPA-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スペイン語入門				
担当教員（ローマ字表記）	ビセンテ プセタ（Alcaniz Buceta Vicente）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

スペイン語入門

授業の概要/Course Overview

スペイン語の入門クラス。スペイン語は英語、中国語などに次いで話者数の多い言語であり、その数は少なく見積もっても4億人に及ぶと言われている。習得した者にはそれだけの世界が広がるということ。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

キーワード/Keyword(s)

スペイン語、スペイン、スペイン語圏アメリカ（いわゆるラテンアメリカ・カリブ諸国、近年ではアメリカ合衆国も含む）、動詞ser、動詞estar、規則活用動詞。

到達目標/Learning Objectives

1. スペイン語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと、導入授業（スペイン語のアルファベット、発音など）
- 第2回：アクセントの法則、簡単なあいさつ
- 第3回：名詞と形容詞の特徴と使い方
- 第4回：主語になる人称代名詞および動詞serの現在形活用
- 第5回：動詞serを使った日常表現
- 第6回：動詞estarの現在形活用
- 第7回：動詞estarを使った場所表現
- 第8回：特殊動詞haber（～がある、いる）および定冠詞・不定冠詞
- 第9回：規則活用動詞（-ar）の用法
- 第10回：規則活用動詞（-er,-ir）の用法
- 第11回：動詞tener（持つ）の様々な用法
- 第12回：動詞ir（行く）とvenir（来る）
- 第13回：動詞querer（～がほしい、～したい）
- 第14回：動詞poderとsaber（～ができる）の相違
- 第15回：まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) 教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。一部は宿題（ミニ・レポート）にもなりますから、辞書を使った予習・復習を行うこ

とが大切です。英語とは辞書の引き方が異なるため、授業内に適宜辞書の使い方を解説します。

(3)ラジオ・テレビ教材、問題集を通じた語学の習得方法、生きたスペイン語に接するための映画・音楽・ニュース媒体等を授業で紹介します。語学の背景であるスペイン語圏の文化にも積極的に触れてください。

【アクティブラーニング】

第2回から第14回まで、毎回「双方向型問題演習」を行います。

履修上の注意/Notes

新しく学ぶ外国語であるからには、毎回の出席が義務付けられる。遅刻も厳禁。やむをえず欠席の際には、その回の内容について必ず教科書等で自習しておくこと。また、不明な事項があれば授業内または授業後に質問の上で、次回までに疑問点を残さないこと。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業内での課題演習（合計50%）と項目ごとの小テスト（合計50%）とを合わせて総合的に評価します。16週目の期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はありません。教員オリジナルの教材を配布します。
----	-----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7562	ナンバリング	KB-SPA-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スペイン語入門				
担当教員（ローマ字表記）	眞家 一（Hajime Maie）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

スペイン語入門

授業の概要/Course Overview

スペイン語の入門クラス。スペイン語は英語、中国語などに次いで話者数の多い言語であり、その数は少なく見積もっても4億人に及ぶと言われている。習得した者にはそれだけの世界が広がるということ。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

キーワード/Keyword(s)

スペイン語、スペイン、スペイン語圏アメリカ（いわゆるラテンアメリカ・カリブ諸国、近年ではアメリカ合衆国も含む）、動詞ser、動詞estar、規則活用動詞。

到達目標/Learning Objectives

1. スペイン語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと、導入授業（スペイン語のアルファベット、発音など）
- 第2回：アクセントの法則、簡単なあいさつ
- 第3回：名詞と形容詞の特徴と使い方
- 第4回：主語になる人称代名詞および動詞serの現在形活用
- 第5回：動詞serを使った日常表現
- 第6回：動詞estarの現在形活用
- 第7回：動詞estarを使った場所表現
- 第8回：特殊動詞haber（～がある、いる）および定冠詞・不定冠詞
- 第9回：規則活用動詞（-ar）の用法
- 第10回：規則活用動詞（-er,-ir）の用法
- 第11回：動詞tener（持つ）の様々な用法
- 第12回：動詞ir（行く）とvenir（来る）
- 第13回：動詞querer（～がほしい、～したい）
- 第14回：動詞poderとsaber（～ができる）の相違
- 第15回：まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) 教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。一部は宿題（ミニ・レポート）にもなりますから、辞書を使った予習・復習を行うこ

とが大切です。英語とは辞書の引き方が異なるため、授業内に適宜辞書の使い方を解説します。

(3)ラジオ・テレビ教材、問題集を通じた語学の習得方法、生きたスペイン語に接するための映画・音楽・ニュース媒体等を授業で紹介します。語学の背景であるスペイン語圏の文化にも積極的に触れてください。

【アクティブラーニング】

第2回から第14回まで、毎回「双方向型問題演習」を行います。

履修上の注意/Notes

新しく学ぶ外国語であるからには、毎回の出席が義務付けられる。遅刻も厳禁。やむをえず欠席の際には、その回の内容について必ず教科書等で自習しておくこと。また、不明な事項があれば授業内または授業後に質問の上で、次回までに疑問点を残さないこと。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業内での課題演習（合計50%）と項目ごとの小テスト（合計50%）とを合わせて総合的に評価します。16週目の期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はありません。教員オリジナルの教材を配布します。
----	-----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7563	ナンバリング	KB-SPA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スペイン語入門				
担当教員（ローマ字表記）	福田 大治（Fukuda Daiji）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

スペイン語入門

授業の概要/Course Overview

スペイン語の入門クラス。スペイン語は英語、中国語などに次いで話者数の多い言語であり、その数は少なく見積もっても4億人に及ぶと言われている。習得した者にはそれだけの世界が広がるということ。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

キーワード/Keyword(s)

スペイン語、スペイン、スペイン語圏アメリカ（いわゆるラテンアメリカ・カリブ諸国、近年ではアメリカ合衆国も含む）、動詞ser、動詞estar、規則活用動詞。

到達目標/Learning Objectives

1. スペイン語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと、導入授業（スペイン語のアルファベット、発音など）
- 第2回：アクセントの法則、簡単なあいさつ
- 第3回：名詞と形容詞の特徴と使い方
- 第4回：主語になる人称代名詞および動詞serの現在形活用
- 第5回：動詞serを使った日常表現
- 第6回：動詞estarの現在形活用
- 第7回：動詞estarを使った場所表現
- 第8回：特殊動詞haber（～がある、いる）および定冠詞・不定冠詞
- 第9回：規則活用動詞（-ar）の用法
- 第10回：規則活用動詞（-er,-ir）の用法
- 第11回：動詞tener（持つ）の様々な用法
- 第12回：動詞ir（行く）とvenir（来る）
- 第13回：動詞querer（～がほしい、～したい）
- 第14回：動詞poderとsaber（～ができる）の相違
- 第15回：まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) 教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。一部は宿題（ミニ・レポート）にもなりますから、辞書を使った予習・復習を行うこ

とが大切です。英語とは辞書の引き方が異なるため、授業内に適宜辞書の使い方を解説します。

(3)ラジオ・テレビ教材、問題集を通じた語学の習得方法、生きたスペイン語に接するための映画・音楽・ニュース媒体等を授業で紹介します。語学の背景であるスペイン語圏の文化にも積極的に触れてください。

【アクティブラーニング】

第2回から第14回まで、毎回「双方向型問題演習」を行います。

履修上の注意/Notes

新しく学ぶ外国語であるからには、毎回の出席が義務付けられる。遅刻も厳禁。やむをえず欠席の際には、その回の内容について必ず教科書等で自習しておくこと。また、不明な事項があれば授業内または授業後に質問の上で、次回までに疑問点を残さないこと。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業内での課題演習（合計50%）と項目ごとの小テスト（合計50%）とを合わせて総合的に評価します。16週目の期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はありません。教員オリジナルの教材を配布します。
----	-----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7564	ナンバリング	KB-SPA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スペイン語入門				
担当教員（ローマ字表記）	ビセンテ プセタ（Alcaniz Buceta Vicente）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

スペイン語入門

授業の概要/Course Overview

スペイン語の入門クラス。スペイン語は英語、中国語などに次いで話者数の多い言語であり、その数は少なく見積もっても4億人に及ぶと言われている。習得した者にはそれだけの世界が広がるということ。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

キーワード/Keyword(s)

スペイン語、スペイン、スペイン語圏アメリカ（いわゆるラテンアメリカ・カリブ諸国、近年ではアメリカ合衆国も含む）、動詞ser、動詞estar、規則活用動詞。

到達目標/Learning Objectives

1. スペイン語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと、導入授業（スペイン語のアルファベット、発音など）
- 第2回：アクセントの法則、簡単なあいさつ
- 第3回：名詞と形容詞の特徴と使い方
- 第4回：主語になる人称代名詞および動詞serの現在形活用
- 第5回：動詞serを使った日常表現
- 第6回：動詞estarの現在形活用
- 第7回：動詞estarを使った場所表現
- 第8回：特殊動詞haber（～がある、いる）および定冠詞・不定冠詞
- 第9回：規則活用動詞（-ar）の用法
- 第10回：規則活用動詞（-er,-ir）の用法
- 第11回：動詞tener（持つ）の様々な用法
- 第12回：動詞ir（行く）とvenir（来る）
- 第13回：動詞querer（～がほしい、～したい）
- 第14回：動詞poderとsaber（～ができる）の相違
- 第15回：まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) 教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。一部は宿題（ミニ・レポート）にもなりますから、辞書を使った予習・復習を行うこ

とが大切です。英語とは辞書の引き方が異なるため、授業内に適宜辞書の使い方を解説します。

(3)ラジオ・テレビ教材、問題集を通じた語学の習得方法、生きたスペイン語に接するための映画・音楽・ニュース媒体等を授業で紹介します。語学の背景であるスペイン語圏の文化にも積極的に触れてください。

【アクティブラーニング】

第2回から第14回まで、毎回「双方向型問題演習」を行います。

履修上の注意/Notes

新しく学ぶ外国語であるからには、毎回の出席が義務付けられる。遅刻も厳禁。やむをえず欠席の際には、その回の内容について必ず教科書等で自習しておくこと。また、不明な事項があれば授業内または授業後に質問の上で、次回までに疑問点を残さないこと。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業内での課題演習（合計50%）と項目ごとの小テスト（合計50%）とを合わせて総合的に評価します。16週目の期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はありません。教員オリジナルの教材を配布します。
----	-----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7565	ナンバリング	KB-SPA-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	木5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	スペイン語入門				
担当教員（ローマ字表記）	眞家 一（Hajime Maie）				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

スペイン語入門

授業の概要/Course Overview

スペイン語の入門クラス。スペイン語は英語、中国語などに次いで話者数の多い言語であり、その数は少なく見積もっても4億人に及ぶと言われている。習得した者にはそれだけの世界が広がるということ。ヨーロッパ、南北アメリカ大陸に興味を持つ学生の受講を歓迎する。

キーワード/Keyword(s)

スペイン語、スペイン、スペイン語圏アメリカ（いわゆるラテンアメリカ・カリブ諸国、近年ではアメリカ合衆国も含む）、動詞ser、動詞estar、規則活用動詞。

到達目標/Learning Objectives

1. スペイン語の初修により、英語とは異なる言語の知識を身に付ける。
2. 英語圏ではない地域の多様な文化を知ることにより、世界を俯瞰的に理解する。
3. グローバル化が進む地域や職域の人々との協働を可能にするコミュニケーション力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと、導入授業（スペイン語のアルファベット、発音など）
- 第2回：アクセントの法則、簡単なあいさつ
- 第3回：名詞と形容詞の特徴と使い方
- 第4回：主語になる人称代名詞および動詞serの現在形活用
- 第5回：動詞serを使った日常表現
- 第6回：動詞estarの現在形活用
- 第7回：動詞estarを使った場所表現
- 第8回：特殊動詞haber（～がある、いる）および定冠詞・不定冠詞
- 第9回：規則活用動詞（-ar）の用法
- 第10回：規則活用動詞（-er,-ir）の用法
- 第11回：動詞tener（持つ）の様々な用法
- 第12回：動詞ir（行く）とvenir（来る）
- 第13回：動詞querer（～がほしい、～したい）
- 第14回：動詞poderとsaber（～ができる）の相違
- 第15回：まとめ

【授業外学修】

- (1) 各回の授業外学修（復習など）には90分程度の時間が必要です。
- (2) 教員オリジナルの練習問題に取り組んでもらいます。一部は宿題（ミニ・レポート）にもなりますから、辞書を使った予習・復習を行うこ

とが大切です。英語とは辞書の引き方が異なるため、授業内に適宜辞書の使い方を解説します。

(3)ラジオ・テレビ教材、問題集を通じた語学の習得方法、生きたスペイン語に接するための映画・音楽・ニュース媒体等を授業で紹介します。語学の背景であるスペイン語圏の文化にも積極的に触れてください。

【アクティブラーニング】

第2回から第14回まで、毎回「双方向型問題演習」を行います。

履修上の注意/Notes

新しく学ぶ外国語であるからには、毎回の出席が義務付けられる。遅刻も厳禁。やむをえず欠席の際には、その回の内容について必ず教科書等で自習しておくこと。また、不明な事項があれば授業内または授業後に質問の上で、次回までに疑問点を残さないこと。

情報端末の活用

オンライン授業の回はPCを使います。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標を十分に修得し、言語の構造をとともよく理解している。
- A：到達目標を修得し、言語の構造を理解している。
- B：到達目標をおおむね修得し、言語の構造をおおむね理解している。
- C：到達目標について最低限の修得をしており、言語の構造をある程度理解している。
- D：到達目標を修得することができておらず、言語の構造を理解していない。

成績の評価方法/Grading

授業内での課題演習（合計50%）と項目ごとの小テスト（合計50%）とを合わせて総合的に評価します。16週目の期末試験は実施しません。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はありません。教員オリジナルの教材を配布します。
----	-----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

その他

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB7601	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語 I				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙（An Yongsu）				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語 I (総合)

授業の概要/Course Overview

- ①研究活動に必要な速読（スキミング、スキミング、予測・類推、索引・目次の利用法等）の技術を学ぶ。
- ②新聞記事、雑誌記事、専門書の抜粋等の読解教材を用いて「自分」に必要な情報を得るための技術を学ぶ。
- ③読解教材を用いて「自分」に必要な情報を得る練習をする。

キーワード/Keyword(s)

速読、内容指向の読解、スキミング、スキミング、速読実践練習

到達目標/Learning Objectives

- ①必要な情報や知識だけ、素早くつかみ取ることができる。
- ②様々な資料から大意把握、情報取りができる。
- ③日本人の読み方に近いスピードで日本語を読み、必要な情報がつかみ取れる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- ①リエンテーション、作文テスト(テーマ「10年後の私」)
- ②スキミングの技術を使う I
- ③スキミングの技術を使う II
- ④スキミングの技術を使う III
- ⑤スキミングの技術を使う IV
- ⑥スキミングの技術を使う V
- ⑦スキミングの技術を使う VI
- ⑧前半の復習及び確認テスト
- ⑨スキミングの技術を使う I
- ⑩スキミングの技術を使う II
- ⑪スキミングの技術を使う III
- ⑫スキミングの技術を使う IV
- ⑬スキミングとスキミングの技術を同時に使う I
- ⑭スキミングとスキミングの技術を同時に使う II
- ⑮後半の復習及び確認テスト

【授業外学修】

- ①事前に配布した「語彙表」に載っている単語、表現などは、あらかじめ調べておくこと。
- ②次回の練習問題を解いてくること。

- ③配布した新聞記事等の資料は自分で語彙・文法を調べてくること。
- ④教科書の練習問題を解きながら復習すること。
- ⑤毎回指示がなくても勉強した語彙・文法について復習すること。
- ⑥各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

第2回～第7回、第9回～第14回は様々なタスクやバラエティに富んだ内容の練習問題を用いてシンク・ペア・シェア、グループディスカッションなどを行い、速読の練習をする。

履修上の注意/Notes

- ①2/3以上出席しない場合は不合格とする。
- ②遅刻3回は欠席1回とみなす。
- ③30分以上の遅刻は欠席とみなす。

情報端末の活用

授業でPCを利用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標①②③を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
- A：到達目標①②③を達成し、優れた学修成果を上げている。
- B：到達目標①②③の学修成果を概ね達成している。
- C：到達目標①②③の最低限の到達目標に届いている。
- D：到達目標①②③に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

- ①授業への貢献度20%②確認テスト60%③提出物・課題20%④16回目に期末試験を行わない。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	中・上級者のための速読の日本語 第2版
著者名	岡 まゆみ
出版社	ジャパンタイムズ
出版年	2013
ISBN	9784789015189
教材費	

備考 適宜、新聞記事、新聞折込広告・新聞折込チラシなどを配布する。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7602	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡA				
担当教員（ローマ字表記）	権 賢貞				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡA（総合）

授業の概要/Course Overview

- (1) 様々なジャンルの視聴覚教材を用いて、聴解力の向上をはかる。
- (2) 様々なジャンルにおける現代日本語の口頭表現を学習する。
- (3) 日本社会における様々なテーマを扱った視聴覚教材の視聴を通して日本文化・日本事情を学ぶ。
- (4) 視聴覚教材の内容をまとめるとともに、その内容に対する自分の意見についてグループ・ディスカッションを行う。
- (5) 関心のあるジャンルの視聴覚資料を選び、その内容をまとめて発表する。

キーワード/Keyword(s)

聴解、聴解力、自己表現力、聴解ストラテジー、アカデミック・ジャパニーズ、視聴覚教材、日本社会、日本文化、日本事情

到達目標/Learning Objectives

- (1) 聴解ストラテジーを身につけ、視聴した内容を正確に理解できる。
- (2) 様々なジャンルの口頭表現を通じてジャンルに応じて表現が変化することが理解できる。
- (3) 様々なジャンルの番組の視聴を通じて、日本文化・日本事情に対する理解を深める。
- (4) 視聴覚資料の内容をまとめるとともに、その内容に対する自分の意見を発表することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス、聴解力チェック、ウォーミングアップ
- 第2回 ニュースを視聴する①
- 第3回 ニュースを視聴する②
- 第4回 ニュースを視聴する③
- 第5回 ドキュメンタリーを視聴する①、確認テスト①
- 第6回 ドキュメンタリーを視聴する②
- 第7回 ドキュメンタリーを視聴する③
- 第8回 映画を視聴する①、確認テスト②
- 第9回 映画を視聴する②
- 第10回 映画を視聴する③
- 第11回 学術番組を視聴する①
- 第12回 学術番組を視聴する②
- 第13回 発表①
- 第14回 発表②
- 第15回 まとめ、確認テスト③

注：第2回～12回の授業は各授業ごとに異なる映像を視聴する。

【授業外学修】

- (1) 授業時に配布した語彙リストやハンドアウトをmanabaにアップするので、復習に利用する。
- (2) 授業時に学んだ語彙や表現をまとめるとともに、例文をノートに整理する。
- (3) 授業時に学習した語彙や表現が含まれた箇所をシャドーイングすることで実際の会話での使用をも試みる。
- (4) 各回の授業外学修に要する時間は平均60分程度を目安とする。（確認テストの準備、発表の資料収集、発表の準備を含む）

【アクティブラーニング】

第2回～第12回（映像活用学習とペア・ディスカッション）

- ・提示された視点からメモを作りながら視聴覚教材を見る。各自作ったメモ内容についてペア・ディスカッションする。

第13回と第14回（グループ・ディスカッション）

- ・各自選んだテーマ及び映像に関するプレゼンテーションを行う。
- ・発表者のプレゼンテーション内容について質疑応答を行うことで意見交換をする。

履修上の注意/Notes

- ・2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ・遅刻は3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。
- ・授業中のグループ・ディスカッションに積極的に参加する。
- ・履修者数等により、授業内容を調整することがある。
- ・質問などには授業後に対応する。

情報端末の活用

- ・課題はWORDで作成し、Teamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+： 90点以上100点 到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている。
- A： 80点以上90点未満 到達目標の4点について高いレベルで達成されている。
- B： 70点以上80点未満 到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C： 60点以上70点未満 到達目標の4点について最低限のレベルで達成されている。
- D： 60点未満 到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

確認テスト：60点（各20点x3回）／提出物・授業貢献度20点／発表20点
16回目の期末試験は実施せず、上記の項目で評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	授業時にプリントを配布する。
----	----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	上級の力をつける聴解ストラテジー
著者名	川口さち子 [ほか]共著

出版社	凡人社
出版年	2003
ISBN	9784893585431
教材費	2400

参考書2

書名	留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解
著者名	東京外国語大学留学生日本語教育センター 編著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	2014
ISBN	978-4883196876
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB7604	ナンバリング	KB-JPN-131	科目分野	演習
開講曜日・時限	月3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	S T	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡB				
担当教員（ローマ字表記）	権 賢貞				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡB（アカデミック・ライティング）

授業の概要/Course Overview

- (1) レポート・論文を書くための適切な日本語の表現技術（文法・文体・書式等）を学ぶ。
- (2) 論理的な文章の展開を意識した600字程度の作文課題を数回提出する。
- (3) 作成した作文についてピア・エディティングを行うことで問題を見つけ合うとともに、問題を解決していく。
- (4) 自分の関心のあるテーマを選び、資料収集、レポートのアウトラインの作成、原稿執筆、推敲などの過程を経て2000～3000字のレポートを完成する。

キーワード/Keyword(s)

レポート、レポート作成、アカデミック・ライティング、原稿執筆、論理的表現形式、書き言葉、資料収集、引用

到達目標/Learning Objectives

- (1) レポート・論文を書くための適切な日本語の表現技能（文法・文体・書式等）を身に着ける。
- (2) レポート・論文に多用される表現形式を使用し、自分の考え方が論理的に表現できる。
- (3) 2000～3000字のレポートが書ける。
- (4) ブレインストーミングやシンク・ペア・シェア、ピア・エディティング等を通じて課題解決能力を高める。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：シラバスを用いたガイダンス及び自己紹介、作文(1)の作成
- 第2回：レポートの構成、作文(1)のピア・エディティング
- 第3回：レポートの基本ルール、レポートにおける文体と書き言葉
- 第4回：文の基本
- 第5回：段落、作文(2)の作成
- 第6回：文や段落のつなぐ表現、作文(2)のピア・エディティング
- 第7回：定義、引用の仕方
- 第8回：比較、作文(3)の作成
- 第9回：順番に説明する、意見を述べる、作文(3)のピア・エディティング
- 第10回：文献の探し方、文献リストの作成の仕方、レポートの仮のレイアウトの作成
- 第11回：原因と結果を述べる、変化を説明する、レポートの仮のレイアウトの修正
- 第12回：発表のPPTの作り方、レポートの第1次原稿を作成
- 第13回：レポートの第1次原稿をピア・エディティング
- 第14回：レポート内容を発表①
- 第15回：レポート内容を発表②、全体の振り返り

【授業外学修】

- (1) Teamsにアップされた授業資料を事前に読んで理解した上で授業に臨む。
- (2) 第1～11回の授業時に配布した練習問題を用いて復習する。
- (3) フィードバックを踏まえて作文を書き直す。
- (4) レポートのテーマを決めた後、テーマ関連の参考文献を収集する。
- (5) 収集した参考文献を授業で学んだ形式を参照し、文献リストを作成する。
- (6) ピア・エディティング等を踏まえレポートの最終原稿を作成し、その内容をまとめた発表用のPPTを作る。
- (7) 各回の授業外学修に要する時間は平均90分程度を目安とする。(作文とレポート等の執筆・修正、発表の準備を含む)

【アクティブラーニング】

- (1) 第2回と第6回、第9回の授業ではピア・エディティングを行う。
- (2) 作文(1)～(3)については、次の授業で互いに作成した文章にコメントをし合う。その結果および教師の添削・コメントを踏まえて書き直す。

第10回～第15回(PBL)

各自テーマを決め、調査研究をし、その結果をレポートにまとめ発表する。その過程でブレインストーミングやシンク・ペア・シェア、ピア・エディティングを通して問題を見つけ合い、各自解決していく。

履修上の注意/Notes

- ・2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ・遅刻は3回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席とする。
- ・授業中のシンク・ペア・シェア、ピア・エディティングなどの活動に積極的に参加する。
- ・履修者数等により、授業内容を調整することがある。
- ・質問などには授業後に対応する。

情報端末の活用

- ・作文の作成およびピア・エディティングの際にはPC、またはタブレット、スマートフォン等を持参すること。
- ・課題作文と課題レポートについては、WORDで作成しTeamsを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 90点以上100点 到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 80点以上90点未満 到達目標の4点について高いレベルで達成されている。
- B : 70点以上80点未満 到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C : 60点以上70点未満 到達目標の4点について最低限のレベルで達成されている
- D : 60点未満 到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

課題作文：30点（各10点x3回）／発表：20点／最終レポート：40点／授業貢献度：10点

教科書/Textbook(s)

備考	授業時にプリントを配布する。
----	----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	留学生のための論理的な文章の書き方
著者名	二通信子, 佐藤不二子著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	2020
ISBN	978-4883198429
教材費	1540

参考書2

書名	小論文への12のステップ：中級日本語学習者対象
著者名	友松 悦子／著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	2009
ISBN	978-4883194889
教材費	1760

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7651	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語 I				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学術日本語 I（応用）

授業の概要/Course Overview

1. 大学の授業に必要な論文、専門書、専門分野のレポートなどの論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を学ぶ。
2. 読んだ内容についてまとめ、ディスカッションを行う。
3. 授業で学んだ文章構造の知識を使い、小論文を書く。

キーワード/Keyword(s)

読解、要約、内容理解、読解技術、多読、学術日本語

到達目標/Learning Objectives

1. 論文、専門書などの論理的な文章を読むための読解技術を身につけ、内容を理解することができる。
2. 論文などの学術日本語の文章の構造を分析的に読むことができる。
3. 文章構造、論理構造に関する知識を生かし、小論文を書くことができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回 オリエンテーション、第1課 言葉の役割
 第2回 第2課 イルカと超音波
 第3回 第3課 地図の分類
 第4回 第4課 睡眠時間—短眠と長眠
 第5回 第5課 日時計
 第6回 第6課 研究者の二つのタイプ
 第7回 第7課 地球温暖化
 第8回 第8課 風呂場の戸
 第9回 第9課 手で数を表す
 第10回 第10課 文明はどのように伝わったか—1「茶」
 第11回 第11課 文明はどのように伝わったか—2「タとハタケ」
 第12回 第12課 カラスの自動車利用行動
 第13回 第13課 台湾南部の客家社会についての一考察
 第14回 第14課 人間とロボットの協調動作に関する研究
 第15回 小論文の発表

※履修人数により授業内容を変更することがある。

【授業外学修】

授業前の予習について：

- ・教科書の語句リストを見て、読み方と意味を確認する。
- ・語句リストに載っていない語句でわからないものがあれば調べておく。
- ・教科書の音声教材を聞き、同じ速度で読めるように練習する。
- ・教科書の練習問題を事前課題とする。事前に授業までにmanabaに提出すること。

復習について：

- ・再度テキストを読む。声に出して読むことが望ましい。
- ・練習問題の解答を確認しておく。
- ・授業で出す作文課題をmanabaに提出する。

- ・各回の授業外学修に要する時間は平均90分程度を目安とする（レポート作成を含む）。

【アクティブ・ラーニング】

- ・第1～14回：トピックの内容や関連事項等についてグループ・ディスカッション（シンク・ペア・シェア等）を行う。
- ・15回は自分で決めたテーマに関する小論文の発表を行う。

履修上の注意/Notes

1. 読むだけでなく、読んだ内容に対して自分の考えを発表できるようにしてください。
 2. 3回遅刻した場合は、1回欠席したものとみなします。
 3. 2/3以上の出席がない場合は不合格とします。
 4. 指定の教科書『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』（税込1,760円）を購入すること。
- ※この授業は、日本語を第二言語／外国語とする留学生向け授業です。
※学部留学生は、プレースメントテストの結果により、条件を満たした学生のみ受講可能です。

情報端末の活用

- ・授業で課す作文、小論文については、manabaを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベルで達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね高いレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベルで達成されている。
- D：到達目標のうち1点以上において全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

授業の参加姿勢10%、事前課題10%、作文35%、小論文30%、発表15%

期末試験は実施しない。

* 授業貢献度：教科書を持ってこない、不必要なスマホの使用、迷惑になる私語等は減点対象となる。

積極的な発言や質問等は加点対象とする。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	大学・大学院留学生の日本語 = Japanese for International College/Graduate Students
著者名	アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著

出版社	アルク
出版年	2015
ISBN	978-4757426313
教材費	1600

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7652	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	金5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡA				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡA(応用)

授業の概要/Course Overview

- ① 大学の授業に必要な速読、要約、内容理解の技術を学ぶ。
- ② 主として学術的な文章を読み、その中で使われる表現や文章構造を理解し読解力及び表現力を高める。
- ③ 各自が好きな読み物を選んで読み、授業でディスカッションを行う。

キーワード/Keyword(s)

速読、要約、多読、内容理解、学術日本語

到達目標/Learning Objectives

- ① 大学生活および日常生活に必要な読解力および表現技術を身につけ、より早く正確に読めるようになる。
- ② 論文等の学術日本語を分析的に読み、文章の構成と論旨が理解できる。
- ③ 読んだ内容を要約し、自分の意見を述べるができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】ガイダンス、時事問題に関する記事の読解とディスカッション
- 第2回：【授業内容】第1課 異文化適応
【授業外学修】第1課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第3回：【授業内容】第2課 いじめ
【授業外学修】第2課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
学期末に発表する本を一冊選び、授業に持ってくる。
- 第4回：【授業内容】第3課 衝動買いを誘導する
【授業外学修】第3課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第5回：【授業内容】第4課 おいしい食感の理由
【授業外学修】第4課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第6回：【授業内容】第5課 日本人の意識
【授業外学修】第5課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第7回：【授業内容】第6課 フリーター問題
【授業外学修】第6課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第8回：【授業内容】確認テスト1 テキスト精読
【授業外学修】確認テストのための復習、今までの漢字語彙、表現の復習を行い、本文を熟読する。
- 第9回：【授業内容】第7課 安全でおいしい水を飲むために
【授業外学修】第7課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。
- 第10回：【授業内容】第8課 「まじめ」という言葉

【授業外学修】第8課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。

第11回：【授業内容】第10課 論文を読む①

【授業外学修】第10課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。

第12回：【授業内容】第11課 論文を読む②

【授業外学修】第11課の録音を聞き、漢字をすべて読めるようにしておく。担当者は発表記事の準備をする。

第13回：【授業内容】確認テスト2 テキスト多読

【授業外学修】確認テストのための復習、今までの漢字語彙、表現の復習を行い、本文を熟読する。

第14回：【授業内容】ブックレポート発表

【授業外学修】ブックレポートの準備、A4サイズ1ページに読んだ本に関する情報をまとめる。

第15回：【授業内容】ブックレポート発表

【授業外学修】ブックレポートの準備、A4サイズ1ページに読んだ本に関する情報をまとめる。

・各回の授業外学修に要する時間は90分程度目安とする。

【アクティブラーニング】

第2回から第12回の授業では、シンク・ペア・シェア、ピア・インストラクション、ディベートなどを用いて、読んだ内容に関する理解を深めていく。

第14回と15回のブックレポートでは、各自が読んだ本に関するプレゼンテーションを行い、質疑応答を交えながら本の紹介を行う。

履修上の注意/Notes

- ①この授業は日本語を母語としない外国人留学生等を対象とする。
- ②読むだけでなく、読んだ内容に対して自分の考えを発表することを期待する。
- ③2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ④遅刻3回で1回欠席とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

情報端末の活用

授業でPCを利用する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+:到達目標の3点について極めて高レベルで達成されている。
A:到達目標の3点について高レベル以上で達成されている。
B:到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C:到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。
D:到達目標の3点について達成されていない。

成績の評価方法/Grading

- ① 提出物・授業貢献度（20%）
 - ② ブックレポート・発表（20%）
 - ③ 確認テスト①&②（60%）
- * 16回目の期末試験は実施せず、上記の項目で評価を行う。
* 授業貢献度：教科書を持ってこない、不必要なスマホの使用、迷惑になる私語等は減点対象となる。
積極的な発言や質問等は加点対象とする。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	大学・大学院留学生の日本語 = Japanese for International College/Graduate Students
----	--

著者名	アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著
出版社	アルク
出版年	2015
ISBN	9784757426337
教材費	1800

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB7653	ナンバリング	KB-JPN-131-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	木4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	学術日本語ⅡC				
担当教員（ローマ字表記）	松田 勇一				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

学術日本語ⅡC（口頭表現）

授業の概要/Course Overview

口頭発表の基本的な知識を身に付け、実際に複数回発表を行う。また、クラス内において社会における身近な話題を取り上げ、ディスカッションを行う。最終発表では、パソコン作成したスライドをもとに発表を行い、質疑応答を行う。

キーワード/Keyword(s)

口頭発表・スピーチ・ディスカッション・プレゼンテーション・質疑応答・スライド発表

到達目標/Learning Objectives

- 1.ゼミなどにおいて、口頭で内容を分かりやすく伝えることができる。
- 2.ディスカッションの場において、他人の意見を聞き、それに対する自分の意見を明確に述べることができる。
- 3.分かりやすいスライドを作成し、発表することができる。
- 4.口頭発表において適切な質疑応答をすることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いた授業ガイダンス
- 第2回 自己紹介のための表現技術を学ぶ。
- 第3回 自己紹介を行う。（自分の所属・専門、日本留学の動機、性格、夢について話す。）
- 第4回 ビデオを用いたフィードバック
- 第5回 スピーチ「身近な社会問題」のための表現技術を学ぶ。
- 第6回 スピーチ「身近な社会問題」を行う。
- 第7回 ビデオを用いたフィードバック
- 第8回 ディスカッション「地球温暖化」のための表現技術を学ぶ。
- 第9回 ディスカッション「地球温暖化」を行う。
- 第10回 プレゼンテーションの基礎表現とプレゼンテーションに必要な表現
- 第11回 スライドの作り方とスライドを用いた発表の方法
- 第12回 プレゼンテーションにおける話し方と態度
- 第13回 発表「これからの研究」と質疑応答を行う。
- 第14回 発表「これからの研究」と質疑応答を行う。
- 第15回 フィードバック

【授業外学修】

第3回の「自己紹介を行う」では、自分の所属・専門、日本留学の動機、性格、夢について発表するので、話す内容を準備しておく。

第6回の「スピーチを行う」では、身の回りの社会問題について発表するので、新聞、雑誌、インターネット等からの情報をまとめ、話す内

容を準備しておく。

第9回の「ディスカッションを行う」では、地球温暖化について自分の意見を発表するので、新聞、雑誌、インターネット等からの情報をまとめ、話す内容を準備しておく。

第13・14回の「発表」では、自分がこれから研究したいこと、現在の研究内容等について、パワーポイントを用いた発表を行うので、その準備をしておく。具体的には、発表原稿の作成、写真や動画の収集、パワーポイントのファイル作成である。発表時間は、1人およそ15分、質疑応答5分程度である。

各発表後には、ビデオに収めた発表風景を観察し、自らの発表態度、話し方、声の大きさ等を確認する。また、話し方、発音等の指導を行うので、各自練習することが望まれる。

なお、予習復習の学習時間の目安としては、1回の講義当たり90分程度の学習が必要である。

【アクティブ・ラーニング】

第3回、第6回、第9回、第13回、第14回、では、「発言カード」、「発言チップ」を用いて質疑応答やディスカッションを進める。第4回、第7回、第15回は、ビデオ撮影した発表風景を観察し、自分の発音、姿勢等について自己評価を行い、「ミニツツペーパー」を作成する。第2回、第5回、第8回、第10回～第12回は、文法表現の問題等に関して、「ソクラテス式問答」、「ピア・インストラクション」を通じて知識の確認を行う。

履修上の注意/Notes

○スライドは、パソコンを用いて各自作成するため、PCリテラシーを要する。

○授業においてビデオ撮影したデータは、個人情報保護のため、学生には渡さない。

○出席は3分の2以上が必須。 ○遅刻は授業開始29分以内とし、30分以後は欠席扱いとする。

○遅刻3回で欠席1回とみなす。 ○質問は、電子メールにて受け付ける。

情報端末の活用

○課題は、PCによって作成したものを原則とするが、対面授業の場合は持参しなくてもよい。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の4点について極めて高いレベルで達成されている。

A：到達目標の4点について高いレベルで達成されている。

B：到達目標の4点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C：到達目標の4点について最低限のレベル以上において達成されている。

D：到達目標の4点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

授業貢献度30%、提出物30%、発表40% 16回目の期末試験は実施せず、上記の項目で評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	アカデミックプレゼンテーション入門：最初の一步から始める日本語学習者と日本人学生のための
著者名	三浦香苗, 岡澤孝雄, 深澤のぞみ, ヒルマン小林恭子 著
出版社	ひつじ書房
出版年	2006
ISBN	9784894763371
教材費	2200

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	プラクティカル・プレゼンテーション
著者名	上村和美, 内田充美著
出版社	くろしお出版
出版年	2008
ISBN	9784874244265
教材費	1540

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--